

千葉市
障害者計画・障害福祉計画策定に係る
実態調査報告書

－障害者生活実態・意向調査－

(概要版)

平成 26 年 3 月

千葉市

- 各ページの四角いコードは「SP コード」と言います。
専用の読み上げ装置を使うことで、報告書の内容を音声で
聞くことができます。



目 次

第1章	調査の目的と方法.....	1
第2章	障害者アンケート調査の結果.....	4
1	ご本人について.....	4
2	医療機関への受診状況について.....	8
3	ご家族や介助者について.....	10
4	相談や情報入手について.....	12
5	暮らしについて.....	14
6	災害対策について.....	17
7	保育・療育について.....	20
8	学校・教育について.....	20
9	日中活動・就労について.....	22
10	将来について.....	24
11	障害のある人に対する理解について.....	26
12	サービスの利用について.....	29
13	施設への入所について（施設に入所している方）.....	33
14	施設での生活について（施設に入所している方）.....	34
15	インターネットモニターを対象とした調査.....	35
第3章	障害者団体ヒアリング調査の結果.....	39
1	当事者団体.....	39
2	障害児者の親の会.....	41
3	家族会・事業者団体連絡会.....	44



第1章 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

福祉・保健・医療・雇用・教育・生活環境など、幅広い分野を対象とした障害者施策の総合的推進と、障害福祉サービス等の必要見込量とその確保のための方策を策定するためには、障害者等の生活実態と意向を明らかにするための基礎調査が不可欠です。

この調査は、障害者基本法第11条第3項に規定する障害者計画及び障害者総合支援法第88条に規定する障害福祉計画の次期計画の策定に係る必要なデータを収集し、障害者施策の一層の推進を図ることを目的として実施しました。

(2) アンケート調査の実施方法

①調査の対象

千葉市に住所のある方で、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、自立支援医療（精神通院医療）を利用している方の中から対象者を選定しました。

対象者	分類	母数	対象者数	対象者の選定方法
I 在宅の方 (39,091名)	身体障害	30,574	1,500	身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方から抽出
	知的障害	3,599	500	療育手帳をお持ちの18歳以上の方から抽出
	精神障害	4,918	500	精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、自立支援医療（精神通院医療）を利用している方から抽出
II 施設に入所している方 (761名)	市内施設	397	397	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、千葉市から障害者施設に入所している方（全数）
	県内施設	320	320	
	県外施設	44	44	
III 18歳未満の方と保護者の方 (2,919名)	身体障害	1,161	500	身体障害者手帳をお持ちの18歳未満の方から抽出
	知的障害	1,758	500	療育手帳をお持ちの18歳未満の方から抽出
IV 発達障害のある方 (107名)		107	107	精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療（精神通院医療）受給者証をお持ちの18歳以上の方のうち、発達障害の類型に属する病名での申請がある方（全数）



対象者	母数	対象者数	対象者の選定方法
V 発達障害のある 18歳未満の方と その保護者の方 (47名)	26	26	精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療（精神通院医療）受給者証をお持ちの18歳未満の方のうち、発達障害の類型に属する病名での申請がある方（全数）
	21	21	千葉県療育センターまたは千葉県大宮学園に通っている方のうち、発達障害の類型に属する病名での申請がある方に対して、一定期間窓口配布
VI 一般市民 (3,776名)	3,776	3,776	千葉県インターネットモニターとして登録がある方（全数）

②調査の方法・期間

「在宅の方（18歳以上）」、「18歳未満の方と保護者の方」、「発達障害のある方」、「18歳未満の発達障害のある方と保護者の方」を対象とした調査では、対象の方に郵送（一部窓口配布）で調査票を配布し、無記名で郵送回収しました。

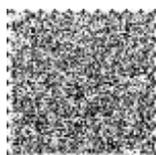
「施設に入所している方」を対象とした調査では、対象の方が入所している施設を通じて調査票を配布し、無記名で郵送回収しました。

「一般市民」を対象とした調査では、市のインターネットモニターに登録している方を対象に実施しました。

調査期間としては、平成26年1月17日～1月31日の期間に実施しました。なお、インターネット調査は、平成26年2月1日～2月7日までの実施です。

③配布・回収状況

調査票の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
I 在宅の方	2,500	1,300	52.0%
II 施設に入所している方	761	598	78.6%
III 18歳未満の方と保護者の方	1,000	461	46.1%
IV 発達障害のある方	107	53	49.5%
V 発達障害の18歳未満の方とその保護者の方	47	25	53.2%
VI 一般市民（インターネット調査）	3,776	1,307	34.6%



(3) ヒアリング調査の実施方法

①調査の対象

千葉市内の障害者団体 14 団体を対象としました。(順不同)

団体の種類	団体名
当事者団体	①千葉市視覚障害者協会 ②千葉市聴覚障害者協会 ③千葉市中途失聴・難聴者協会 ④千葉市身体障害者福祉会 ⑤千葉市オストミー協会 ⑥千葉市腎臓病患者友の会
障害児者の親の会	①千葉市肢体不自由児者父母の会 ②千葉市ことばを育てる会 ③千葉市重症心身障害児(者)を守る会 ④千葉市手をつなぐ育成会 ⑤千葉市自閉症協会
家族会・事業者団体連絡会	①特定非営利活動法人千家連 ②千葉市精神障害者共同作業所等連絡会 ③千葉市中心身障がい者ワークホーム等連絡会

②調査の方法・期間

対象団体に事前に調査票を配布し、当日代表の方に会場に来ていただいて、調査票の記入に基づいてお話しを伺う形で実施しました。また、調査期間としては、平成 26 年 2 月 10 日～2 月 19 日に実施しました。

◆調査結果の利用にあたって

- (1) 集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が1つだけの場合、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、100.0%にならない場合があります。また、説明文の中で複数の選択肢を合わせた割合を記載している場合、実数から再計算した上で四捨五入しているため、各選択肢の割合をそのまま合計した値と若干異なっています。
- (2) 回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- (3) 掲載の都合上、選択肢の文言については一部省略している場合があります。



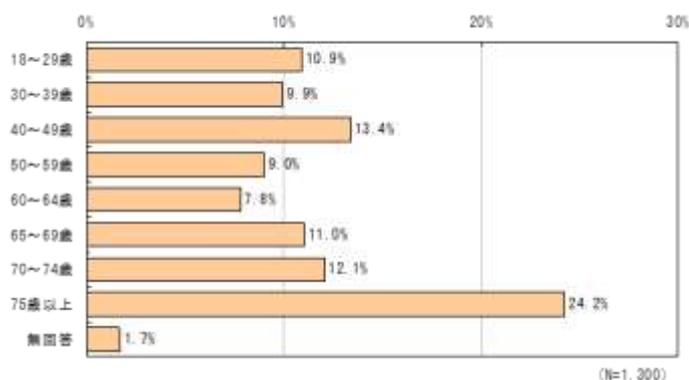
第2章 障害者アンケート調査の結果

1 ご本人について

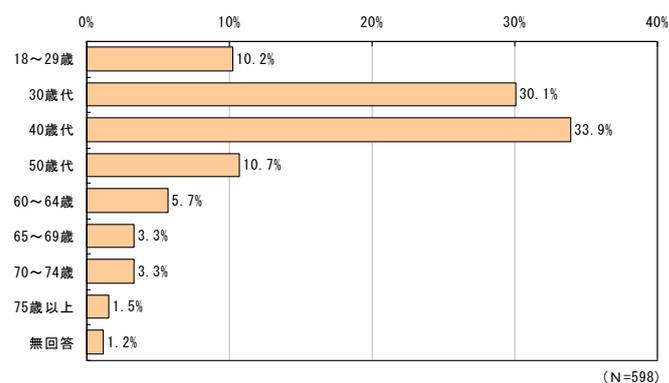
(1) 年齢

在宅の方（18歳以上）では「75歳以上」、施設に入所している方では「40歳代」、18歳未満の方では「9～11歳」、発達障害のある方（18歳以上）では「20～29歳」、発達障害のある方（18歳未満）では「15歳以上」が最も多くなっています。

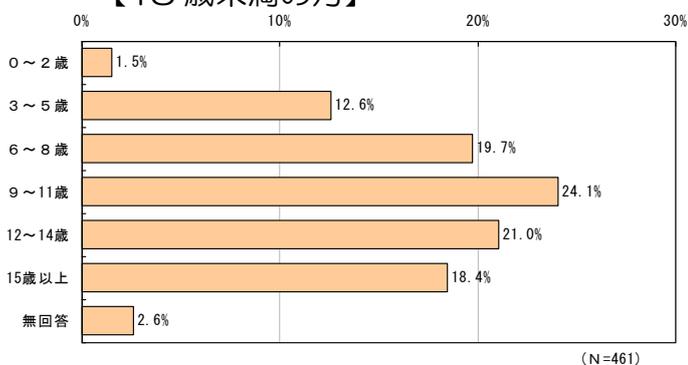
【在宅の方（18歳以上）】



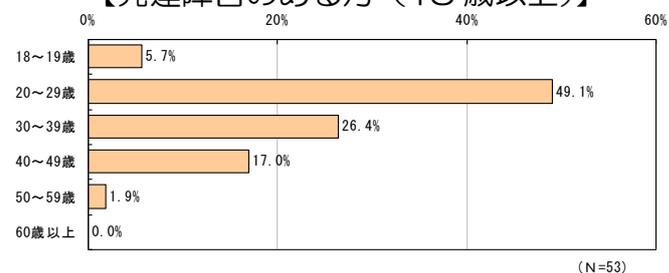
【施設に入所している方】



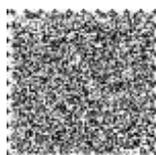
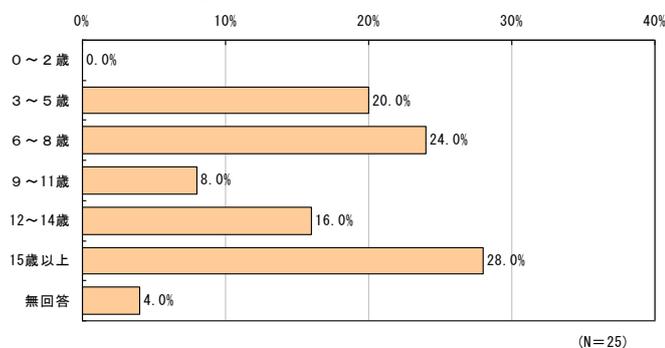
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



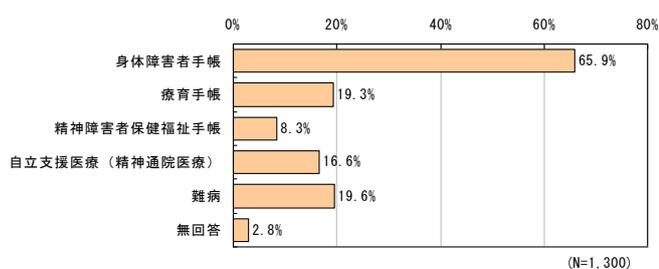
【発達障害のある方（18歳未満）】



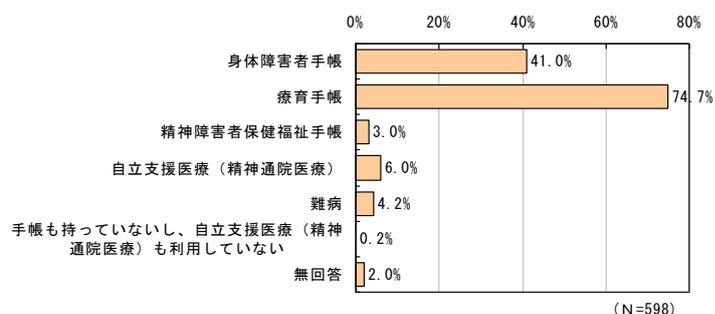
(2) 障害の種別

在宅の方（18歳以上）では「身体障害者手帳」、施設に入所している方及び18歳未満の方では「療育手帳」が最も多くなっています。

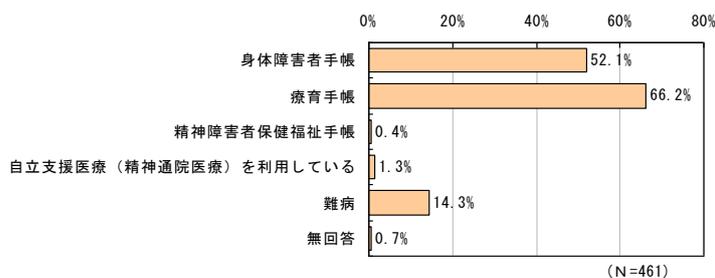
【在宅の方（18歳以上）】



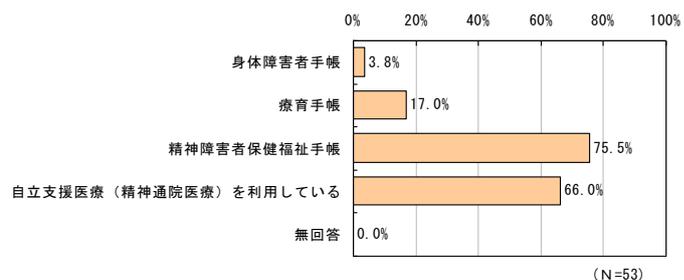
【施設に入所している方】



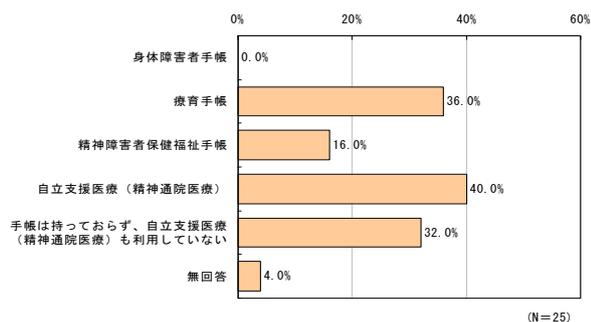
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



【発達障害のある方（18歳未満）】



(3) 難病の種別

在宅の方（18歳以上）では「悪性関節リウマチ」が最も多くなっています。

【在宅の方（18歳以上）】

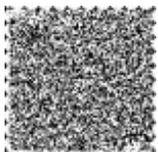
病名	人数	病名	人数	病名	人数
パーキンソン病	3	パーキンソン病関連疾患	10	肺動脈性肺高血圧症	3
多発性硬化症	0	アミロイドーシス	0	神経線維腫症	2
重症筋無力症	2	後縦靭帯骨化症	2	亜急性硬化性全脳炎	0
全身性エリテマトーデス	8	ハンチントン病	0	バッド・キアリ症候群	0
スモン	1	モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	2	慢性血栓性肺高血圧症	1
再生不良性貧血	0	ウェゲナー肉芽腫症	0	ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病含む)	1
サルコイドーシス	4	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	5	副腎白質ジストロフィー	0
筋萎縮性側索硬化症	4	多系統萎縮症	0	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎	8	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0	脊髄性筋萎縮症	3
特発性血小板減少性紫斑病	1	膿疱性乾癬	2	球脊髄性筋萎縮症	1
結節性動脈周囲炎	2	広範脊柱管狭窄症	1	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2
潰瘍性大腸炎	6	原発性胆汁性肝硬変	2	肥大型心筋症	8
大動脈炎症候群	2	重症急性膵炎	0	拘束型心筋症	3
ピュルガー病	1	特発性大腿骨頭壊死症	7	ミトコンドリア病	1
天疱瘡	0	混合性結合組織病	0	リンパ管筋腫症(LAM)	1
脊髄小脳変性症	7	原発性免疫不全症候群	1	重症多型滲出性紅斑(急性期)	0
クローン病	1	特発性間質性肺炎	4	黄色靭帯骨化症	0
難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1	網膜色素変性症	15	間脳下垂体機能障害	0
悪性関節リウマチ	20	プリオン病	0	計(実人数)	137

【施設に入所している方】

病名	人数	病名	人数	病名	人数
パーキンソン病	3	パーキンソン病関連疾患	1	肺動脈性肺高血圧症	0
多発性硬化症	1	アミロイドーシス	0	神経線維腫症	0
重症筋無力症	0	後縦靭帯骨化症	0	亜急性硬化性全脳炎	0
全身性エリテマトーデス	0	ハンチントン病	1	バッド・キアリ症候群	1
スモン	0	モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	0	慢性血栓性肺高血圧症	0
再生不良性貧血	1	ウェゲナー肉芽腫症	0	ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病含む)	0
サルコイドーシス	0	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	0	副腎白質ジストロフィー	0
筋萎縮性側索硬化症	1	多系統萎縮症	0	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎	0	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0	脊髄性筋萎縮症	0
特発性血小板減少性紫斑病	0	膿疱性乾癬	0	球脊髄性筋萎縮症	0
結節性動脈周囲炎	0	広範脊柱管狭窄症	0	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0
潰瘍性大腸炎	1	原発性胆汁性肝硬変	0	肥大型心筋症	0
大動脈炎症候群	0	重症急性膵炎	0	拘束型心筋症	0
ピュルガー病	0	特発性大腿骨頭壊死症	0	ミトコンドリア病	0
天疱瘡	0	混合性結合組織病	0	リンパ管筋腫症(LAM)	0
脊髄小脳変性症	1	原発性免疫不全症候群	0	重症多型滲出性紅斑(急性期)	0
クローン病	0	特発性間質性肺炎	0	黄色靭帯骨化症	0
難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0	網膜色素変性症	0	間脳下垂体機能障害	1
悪性関節リウマチ	0	プリオン病	0	計(実人数)	12

【18歳未満の方】

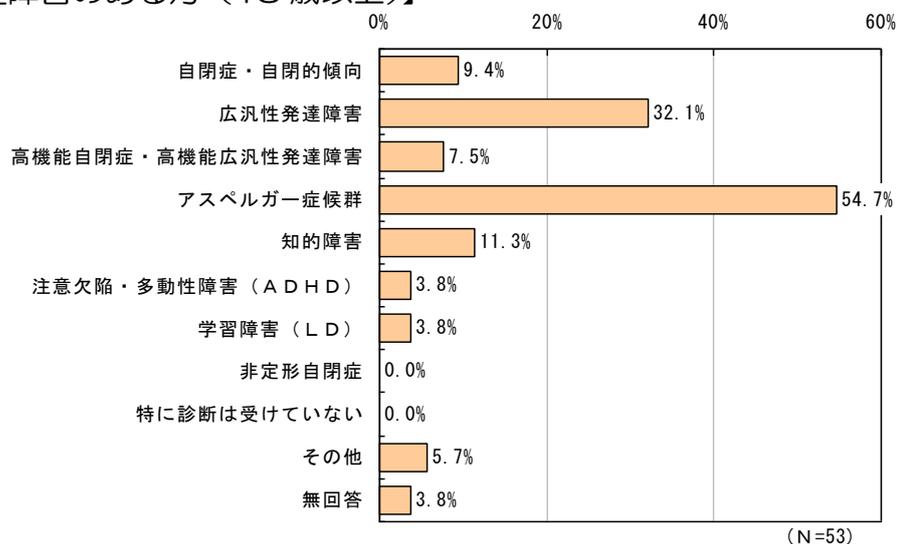
病名	人数	病名	人数	病名	人数
パーキンソン病	0	パーキンソン病関連疾患	0	肺動脈性肺高血圧症	1
多発性硬化症	0	アミロイドーシス	0	神経線維腫症	0
重症筋無力症	1	後縦靭帯骨化症	0	亜急性硬化性全脳炎	0
全身性エリテマトーデス	0	ハンチントン病	0	バッド・キアリ症候群	0
スモン	0	モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	0	慢性血栓性肺高血圧症	0
再生不良性貧血	0	ウェゲナー肉芽腫症	0	ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病含む)	1
サルコイドーシス	0	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	0	副腎白質ジストロフィー	2
筋萎縮性側索硬化症	0	多系統萎縮症	0	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎	0	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1	脊髄性筋萎縮症	1
特発性血小板減少性紫斑病	0	膿疱性乾癬	0	球脊髄性筋萎縮症	0
結節性動脈周囲炎	0	広範脊柱管狭窄症	0	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0
潰瘍性大腸炎	0	原発性胆汁性肝硬変	0	肥大型心筋症	0
大動脈炎症候群	0	重症急性膵炎	0	拘束型心筋症	0
ピュルガー病	0	特発性大腿骨頭壊死症	0	ミトコンドリア病	0
天疱瘡	0	混合性結合組織病	0	リンパ管筋腫症(LAM)	0
脊髄小脳変性症	0	原発性免疫不全症候群	0	重症多型滲出性紅斑(急性期)	0
クローン病	0	特発性間質性肺炎	0	黄色靭帯骨化症	0
難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0	網膜色素変性症	0	間脳下垂体機能障害	1
悪性関節リウマチ	0	プリオン病	0	計(実人数)	8



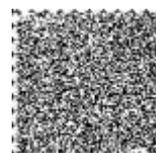
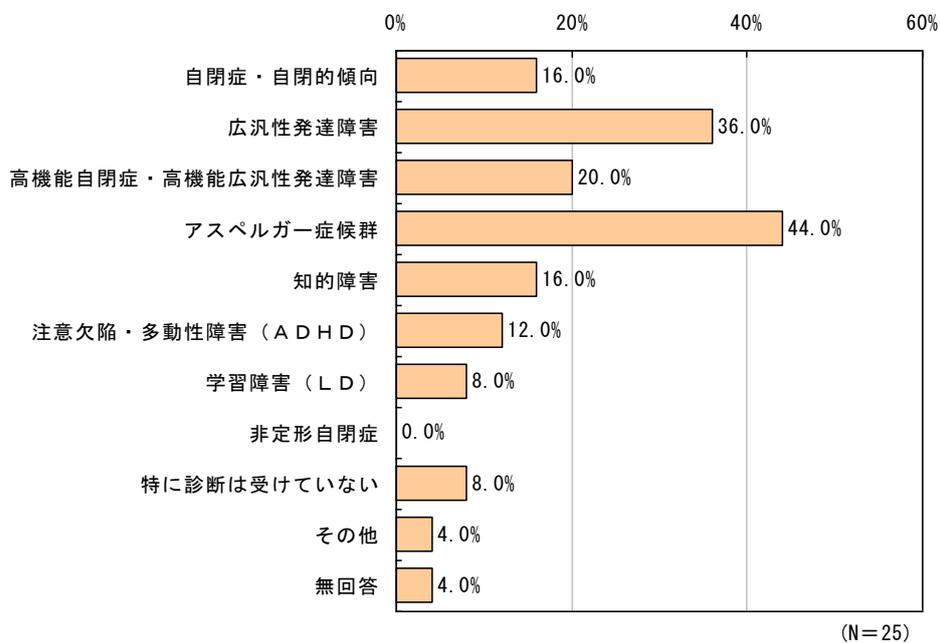
(4) 発達障害の種別

いずれの調査でも「アスペルガー症候群」が最も多くなっています。

【発達障害のある方（18歳以上）】



【発達障害のある方（18歳未満）】

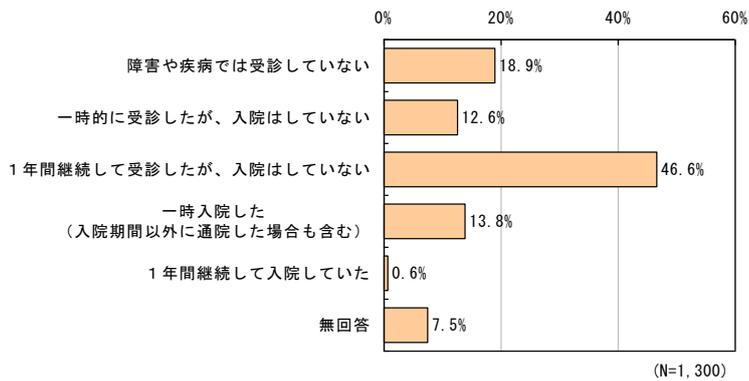


2 医療機関への受診状況について

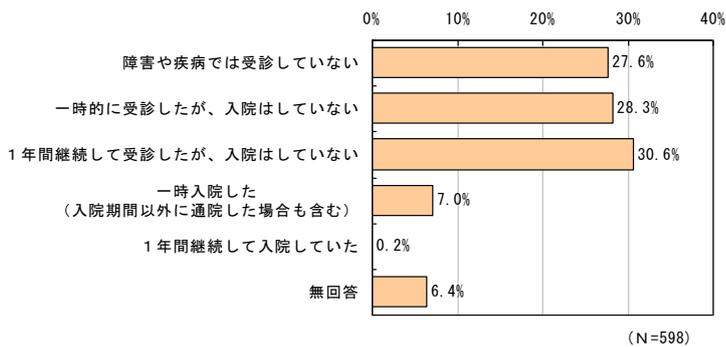
(1) 医療機関への受診状況

いずれの調査でも「1年間継続して受診したが、入院はしていない」が最も多くなっています。

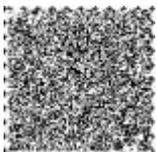
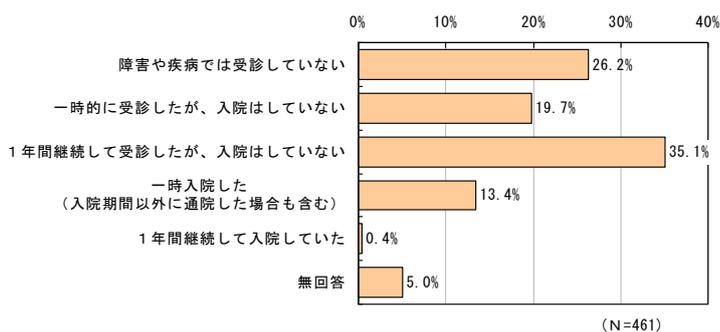
【在宅の方（18歳以上）】



【施設に入所している方】



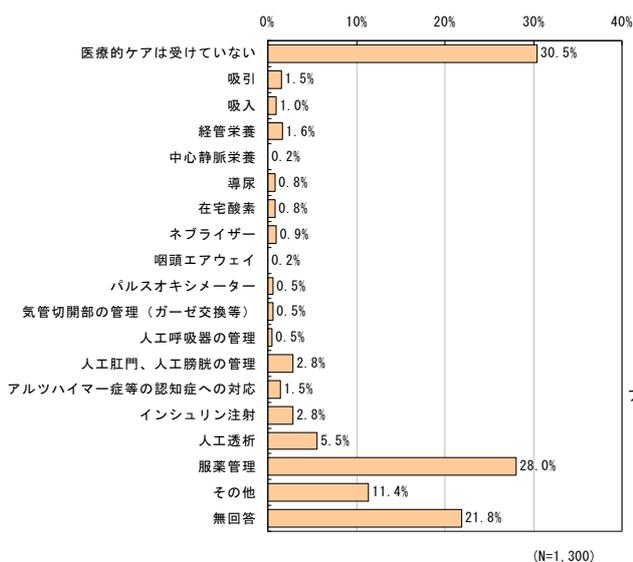
【18歳未満の方】



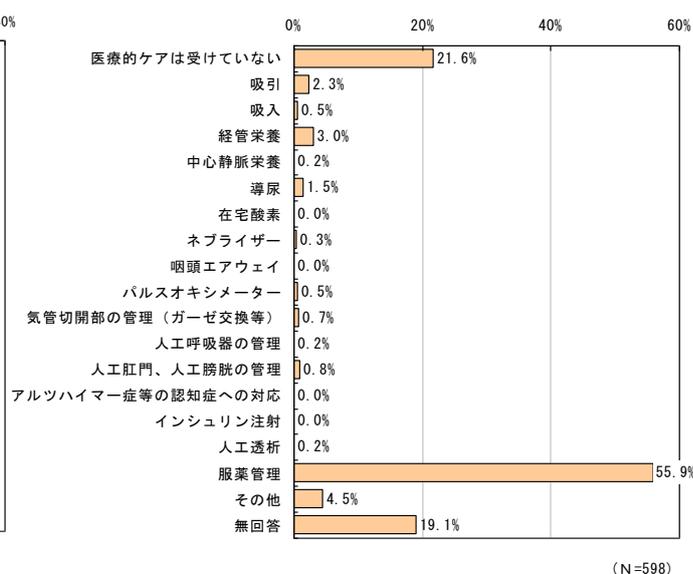
(2) 医療的ケアの種類

在宅の方（18歳以上）、18歳未満の方では「医療的ケアは受けていない」、施設に入所している方では「服薬管理」が最も多くなっています。

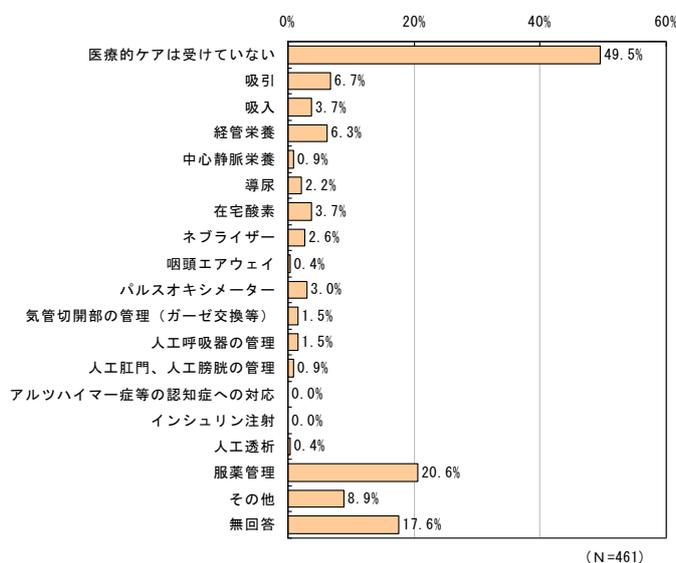
【在宅の方（18歳以上）】



【施設に入所している方】



【18歳未満の方】

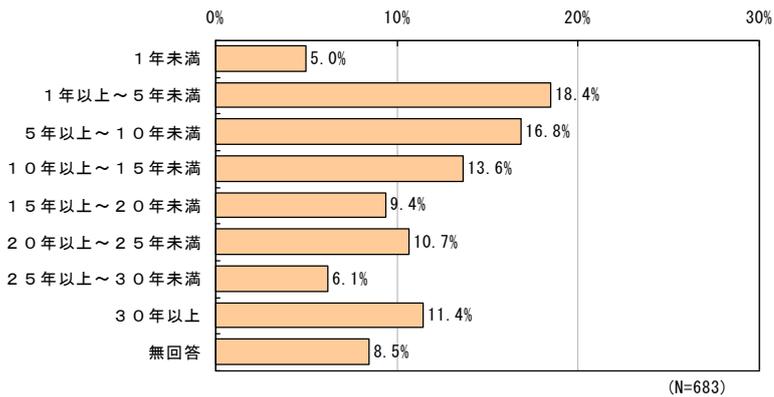


3 ご家族や介助者について

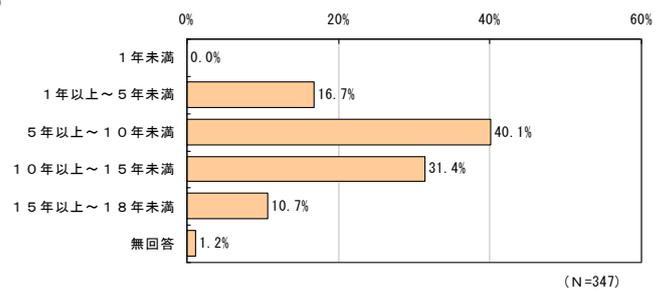
(1) 主な介助者の介助継続年数

在宅の方(18歳以上)では「1年以上～5年未満」、18歳未満の方、発達障害のある方(18歳以上)、発達障害のある方(18歳未満)では「5年以上10年未満」が最も多くなっています。

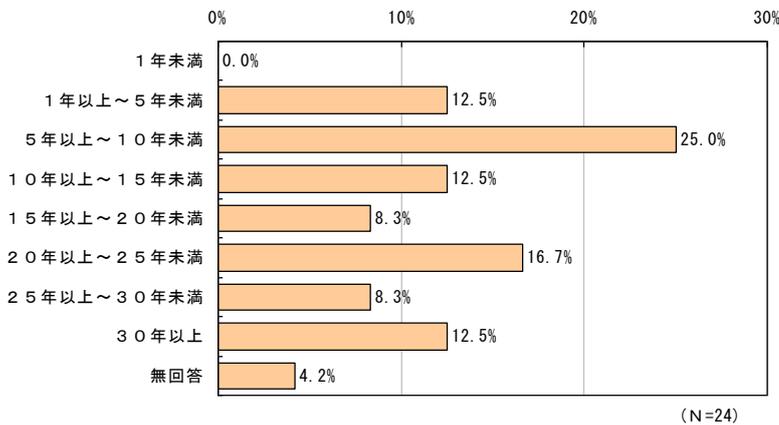
【在宅の方(18歳以上)】



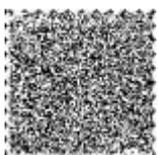
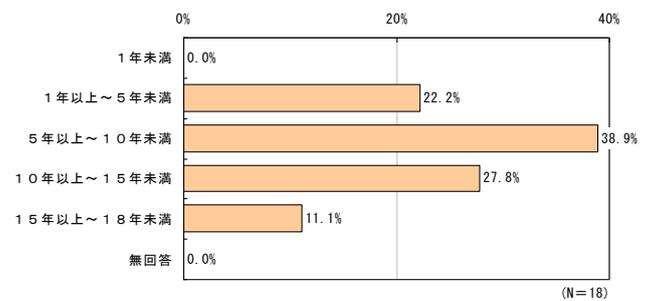
【18歳未満の方】



【発達障害のある方(18歳以上)】



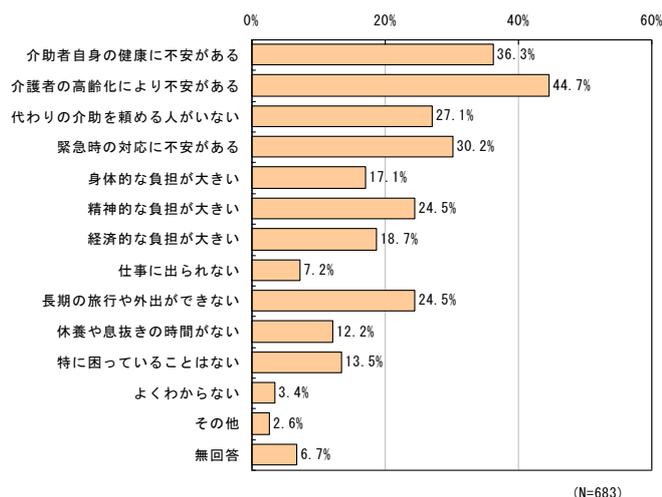
【発達障害のある方(18歳未満)】



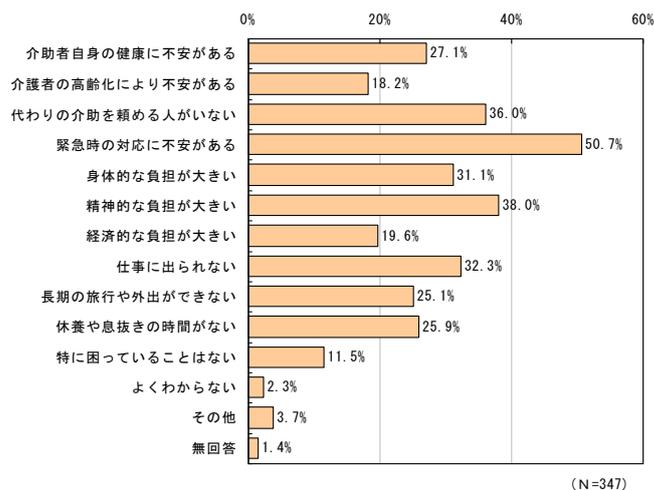
(2) 主な介助者が困っていること

在宅の方（18歳以上）、発達障害のある方（18歳以上）では「介護者の高齢化により不安がある」、18歳未満の方では「緊急時の対応に不安がある」、発達障害のある方（18歳未満）では「精神的な負担が大きい」が最も多くなっています。

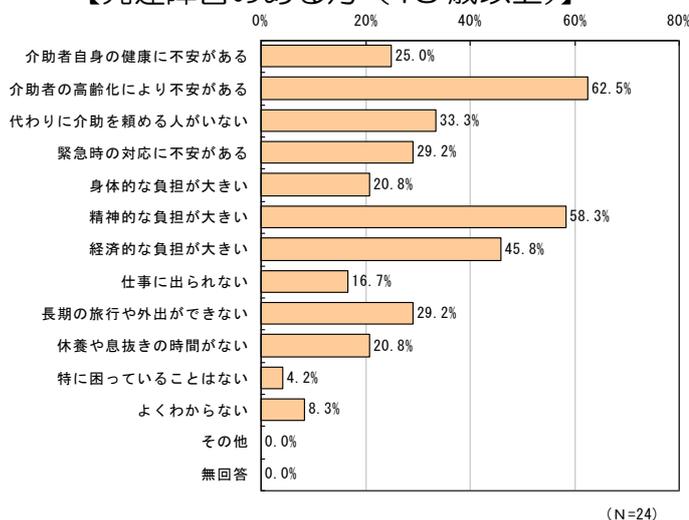
【在宅の方（18歳以上）】



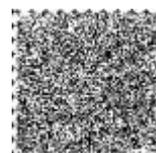
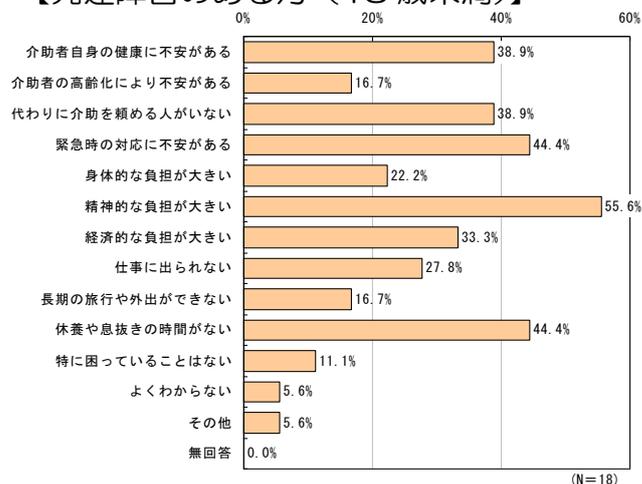
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



【発達障害のある方（18歳未満）】

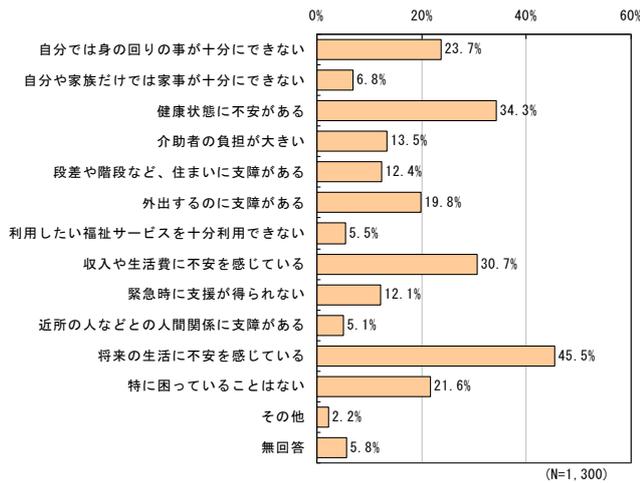


4 相談や情報入手について

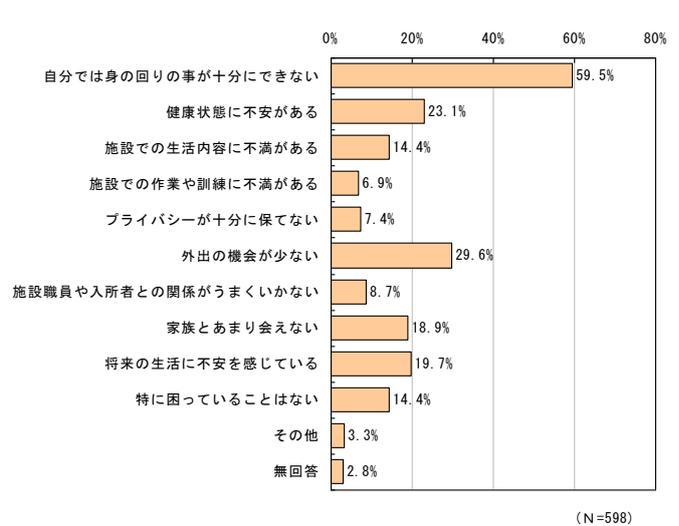
(1) 日常生活で困っていること

施設に入所している方を除くすべての調査では「将来の生活に不安を感じている」が最も多く、施設に入所している方では「自分では身の回りの事が十分にできない」が最も多くなっています。

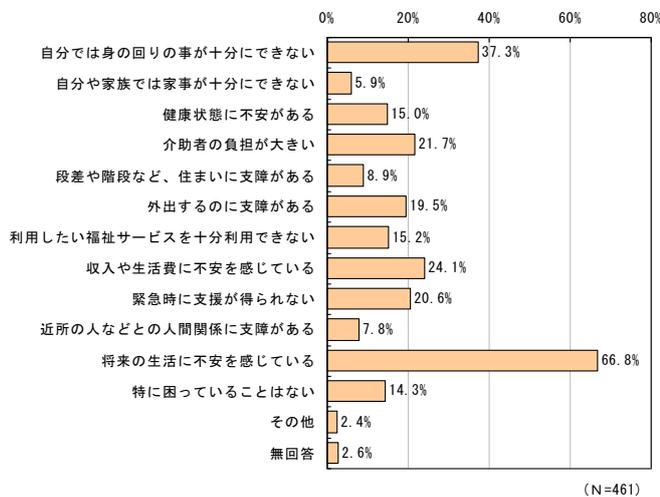
【在宅の方（18歳以上）】



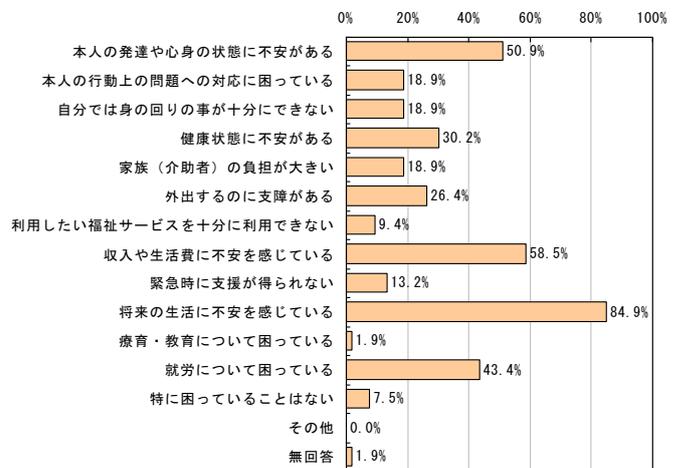
【施設に入所している方】



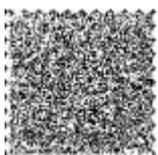
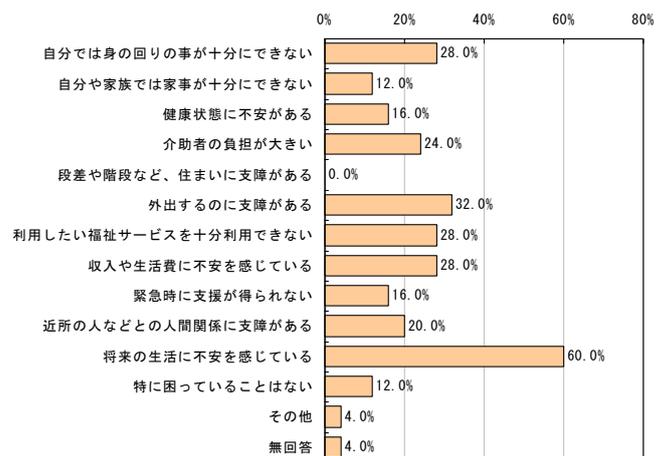
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



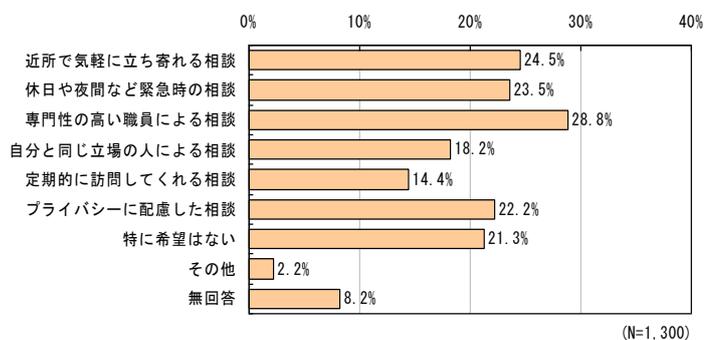
【発達障害のある方（18歳未満）】 (N=53)



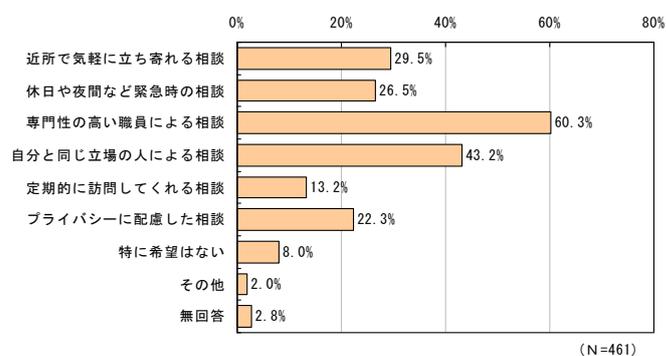
(2) 希望する相談制度

いずれの調査でも「専門性の高い職員による相談」が最も多くなっています。

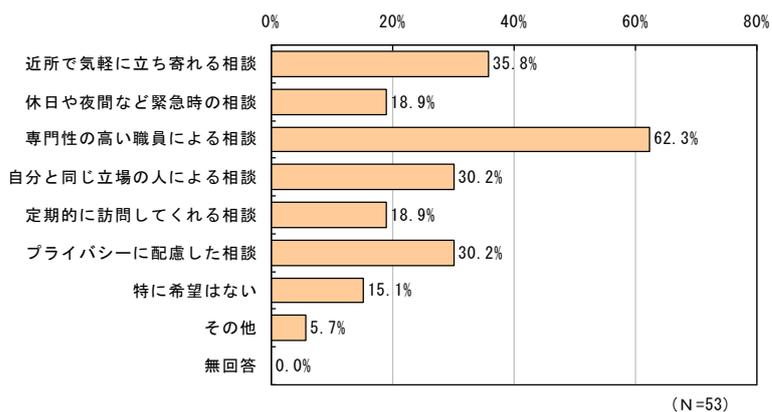
【在宅の方（18歳以上）】



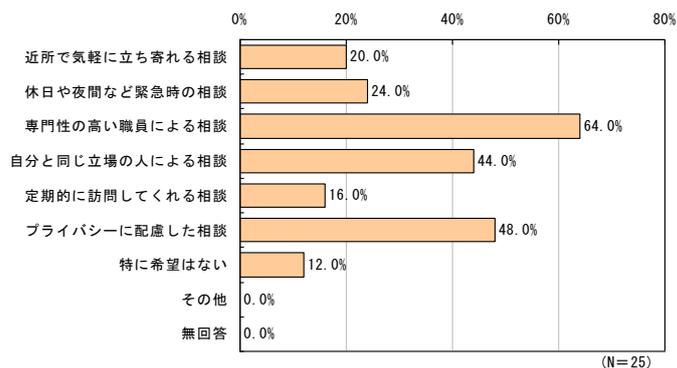
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



【発達障害のある方（18歳未満）】

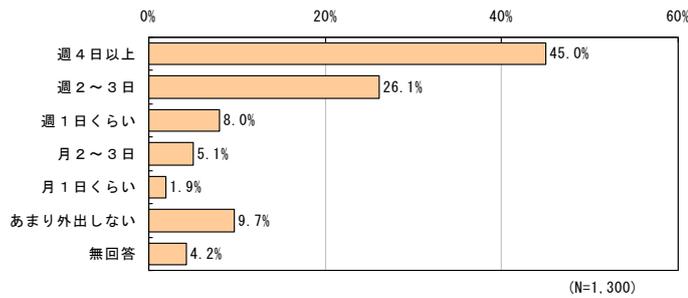


5 暮らしについて

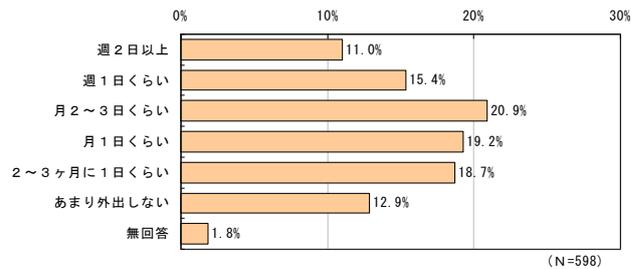
(1) 外出の頻度

施設に入所している方を除くすべての調査では「週4日以上」が最も多くなっています。
施設に入所している方では「月に2～3日くらい」が最も多くなっています。

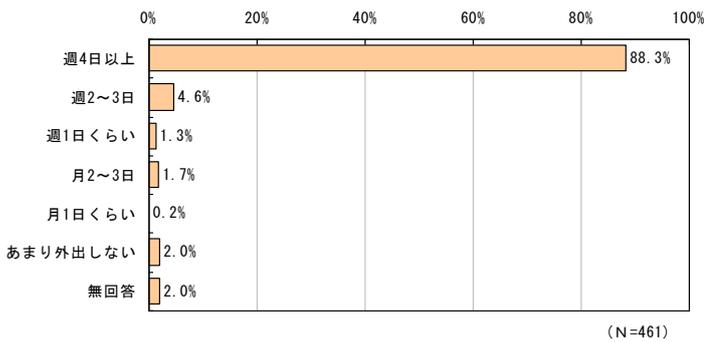
【在宅の方（18歳以上）】



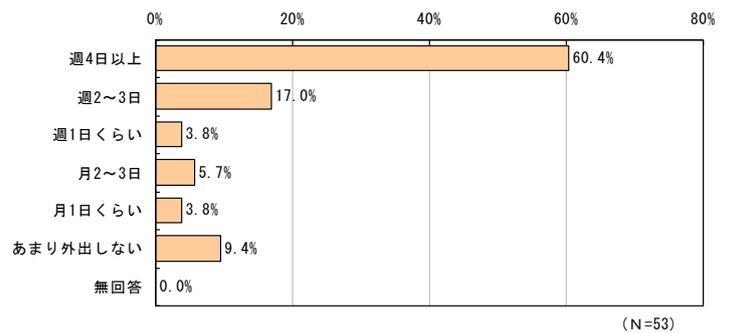
【施設に入所している方】



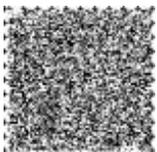
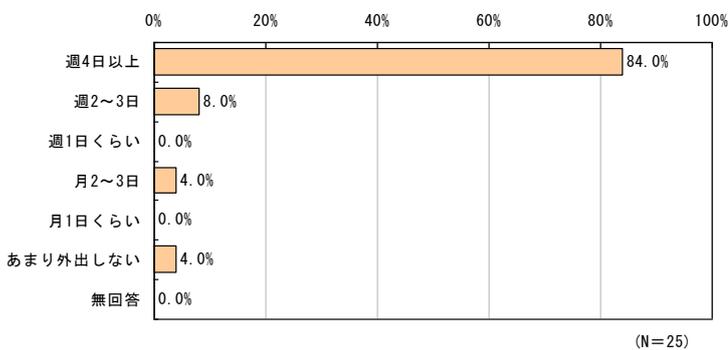
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



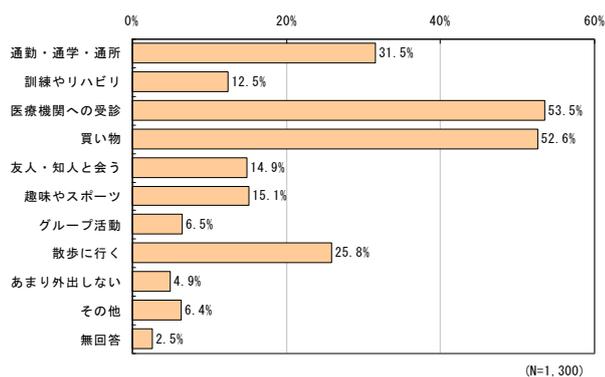
【発達障害のある方（18歳未満）】



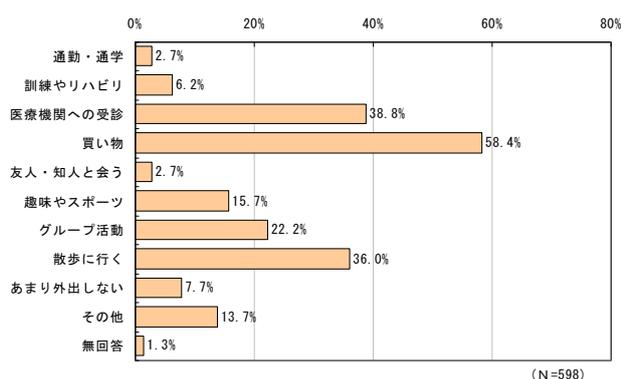
(2) 外出の目的

在宅の方（18歳以上）、発達障害のある方（18歳以上）では「医療機関への受診」、施設に入所している方では「買い物」、18歳未満の方、発達障害のある方（18歳未満）では「通勤・通学・通所」が最も多くなっています。

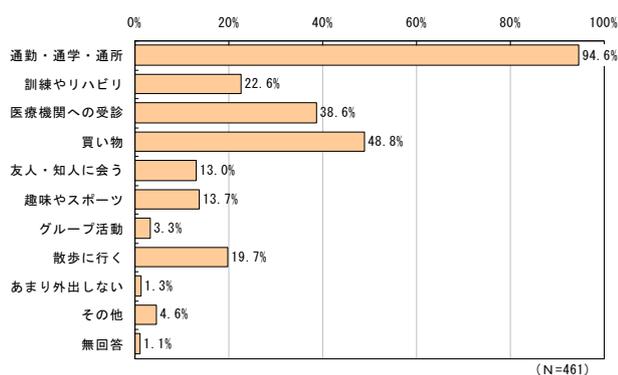
【在宅の方（18歳以上）】



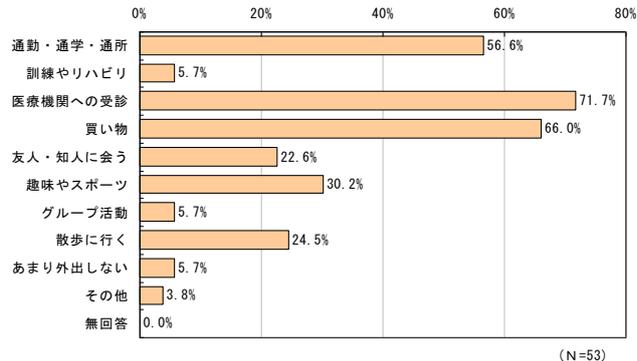
【施設に入所している方】



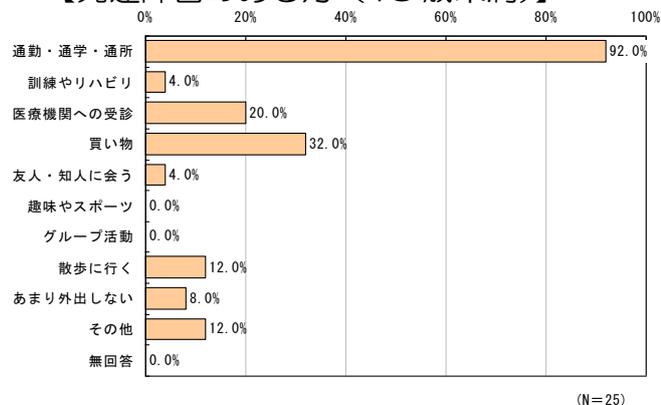
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



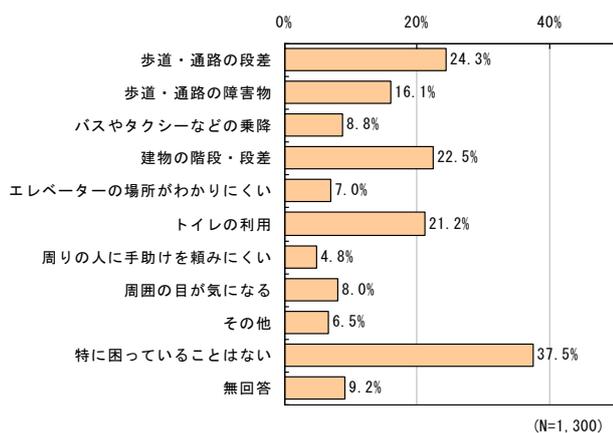
【発達障害のある方（18歳未満）】



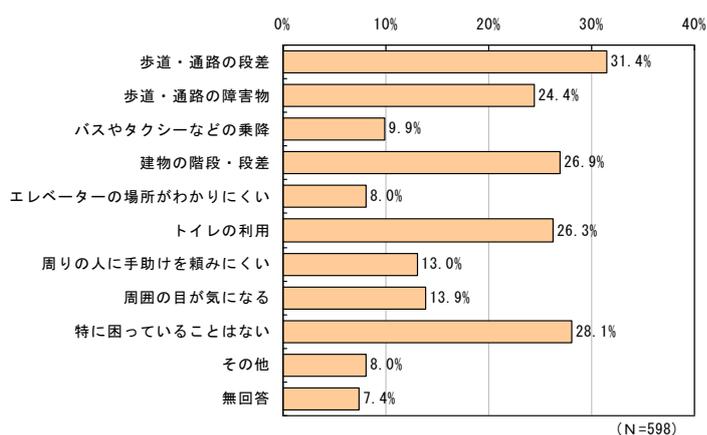
(3) 外出するときに困っていること

在宅の方（18歳以上）、18歳未満の方では「特に困っていることはない」、施設に入所している方では「歩道・通路の段差」が最も多くなっています。

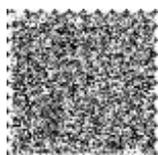
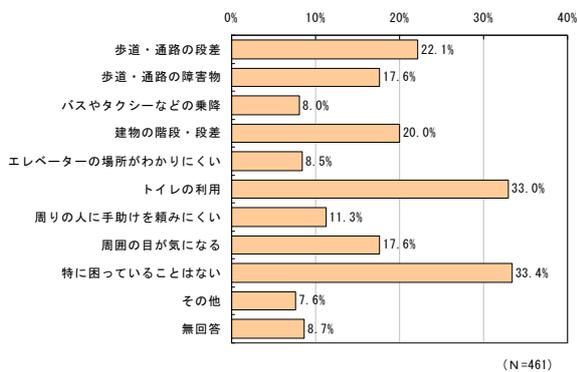
【在宅の方（18歳以上）】



【施設に入所している方】



【18歳未満の方】

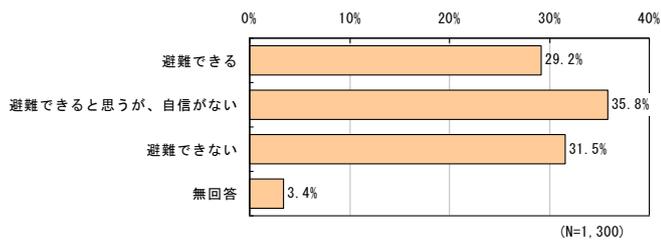


6 災害対策について

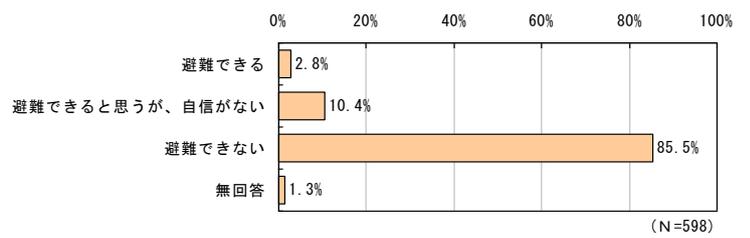
(1) 災害時の避難

在宅の方（18歳以上）では「避難できると思うが、自信が無い」、施設に入所している方、18歳未満の方、発達障害のある方（18歳未満）では「避難できない」が最も多くなっています。

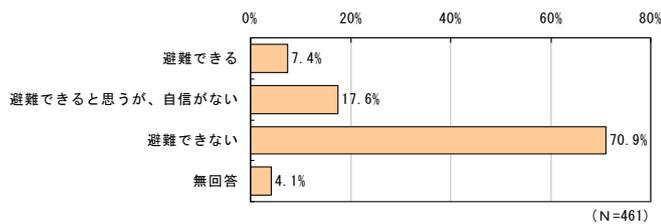
【在宅の方（18歳以上）】



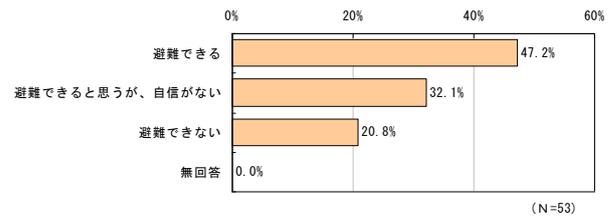
【施設に入所している方】



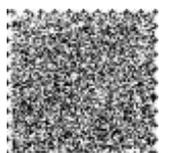
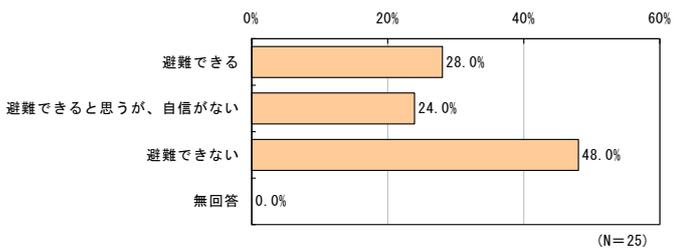
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



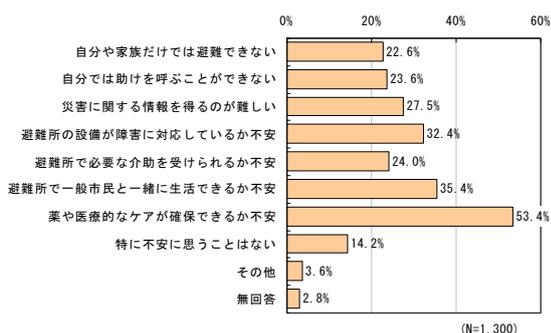
【発達障害のある方（18歳未満）】



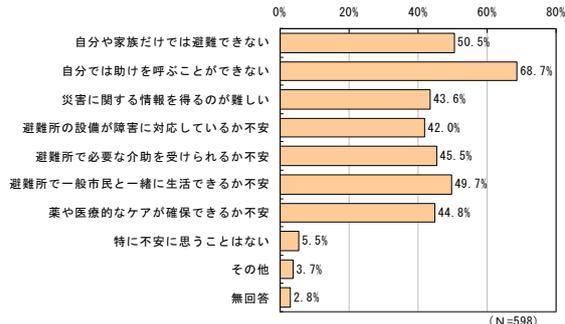
(2) 災害時に不安に思うこと

在宅の方（18歳以上）、発達障害のある方（18歳以上）では「薬や医療的なケアが確保できるか不安」、施設に入所している方では「自分では助けを呼ぶことができない」、18歳未満の方と発達障害のある方（18歳未満）では「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」が最も多くなっています。

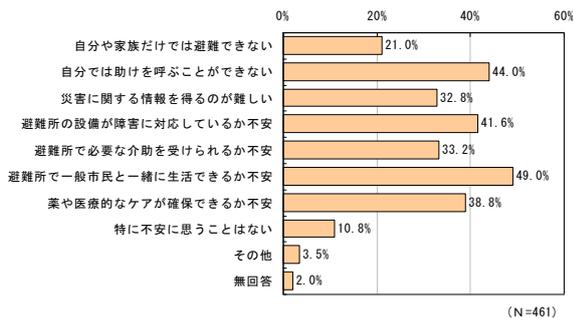
【在宅の方（18歳以上）】



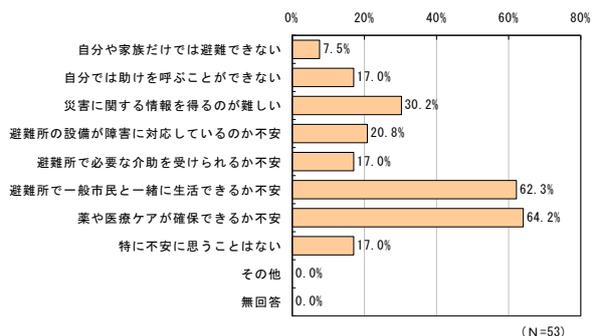
【施設に入所している方】



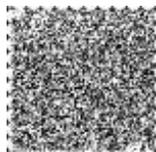
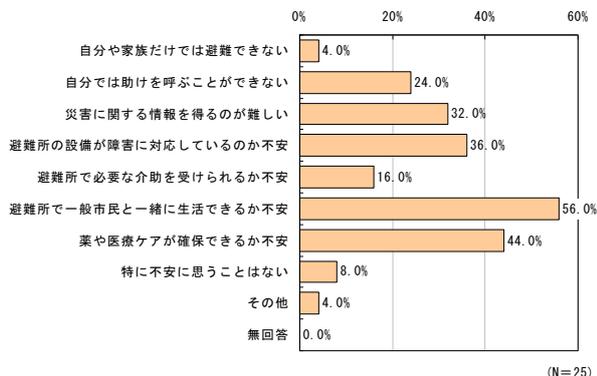
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



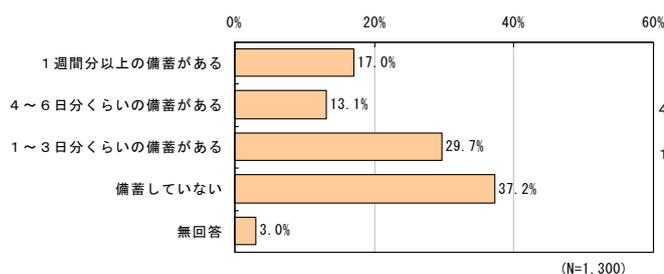
【発達障害のある方（18歳未満）】



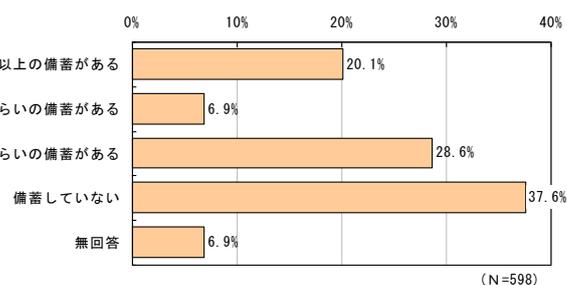
(3) 災害発生に備えた物資の備蓄

在宅の方（18歳以上）、施設に入所している方、発達障害のある方（18歳以上）では「備蓄していない」、18歳未満の方、発達障害のある方（18歳未満）では「1～3日くらいの備蓄がある」が最も多くなっています。

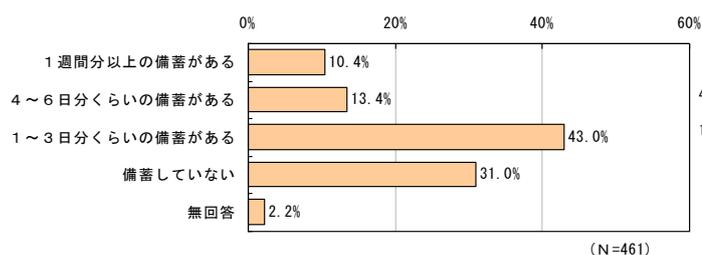
【在宅の方（18歳以上）】



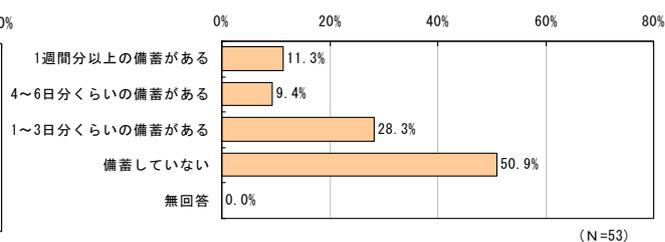
【施設に入所している方】



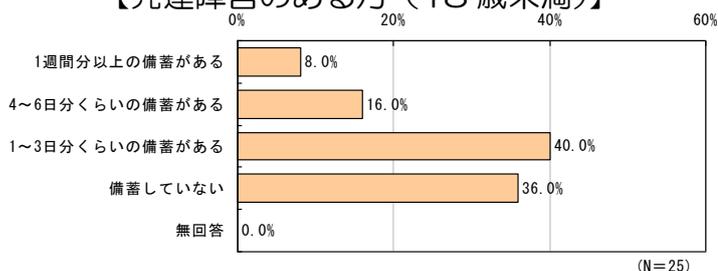
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



【発達障害のある方（18歳未満）】

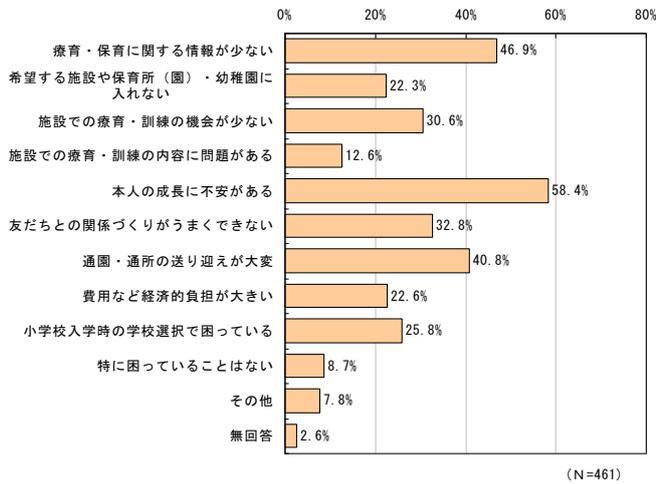


7 保育・療育について

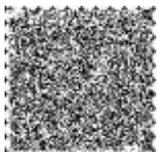
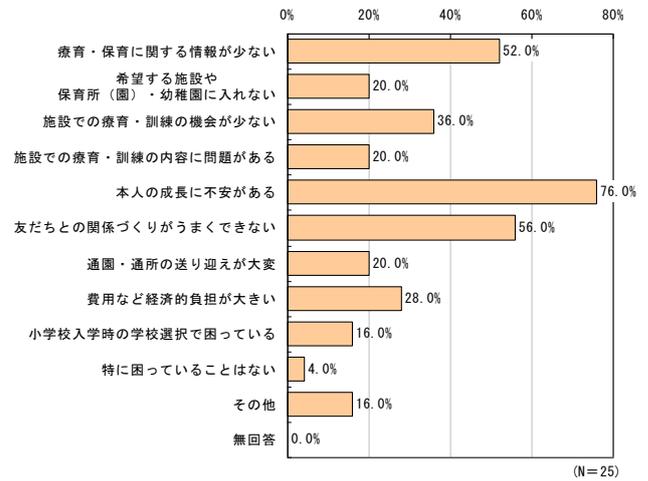
(1) 療育・保育について困っていること

いずれの調査でも「本人の成長に不安がある」が最も多くなっています。

【18歳未満の方】



【発達障害のある方(18歳未満)】

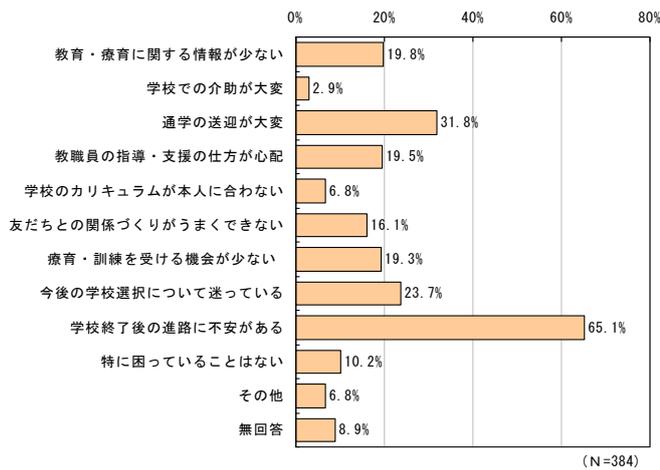


8 学校・教育について

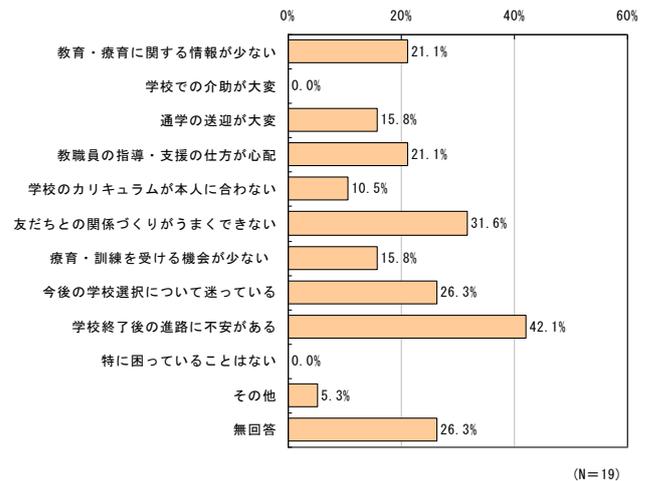
(1) 学校・教育について困っていること

いずれの調査でも「学校修了後の進路に不安がある」が最も多くなっています。

【18歳未満の方】



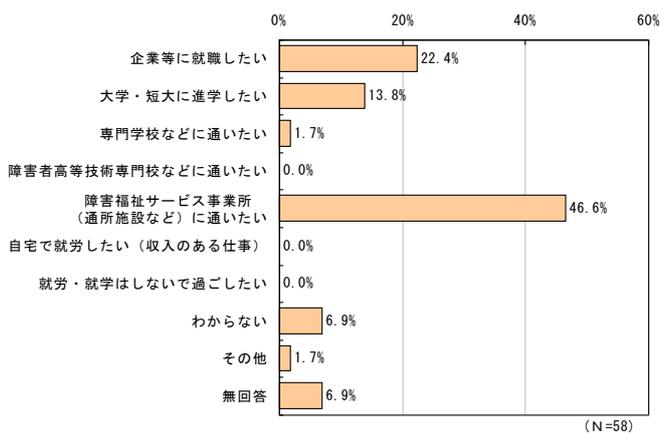
【発達障害のある方（18歳未満）】



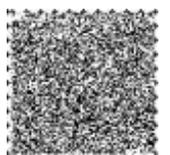
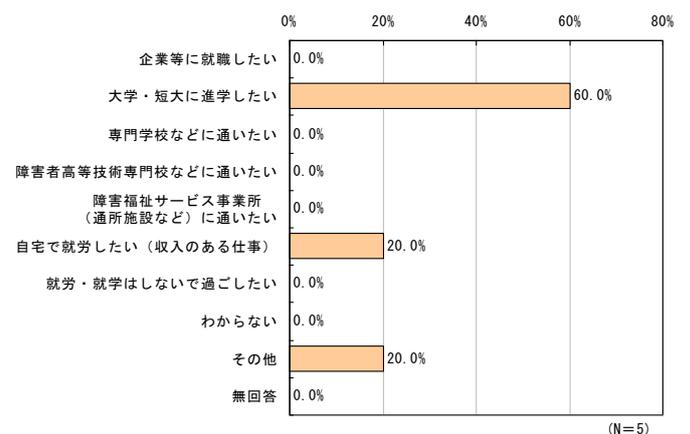
(2) 学校卒業後の進路希望

18歳未満の方では「障害福祉サービス事業所に通いたい」、発達障害のある方（18歳未満）では「大学・短大に進学したい」が最も多くなっています。

【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳未満）】

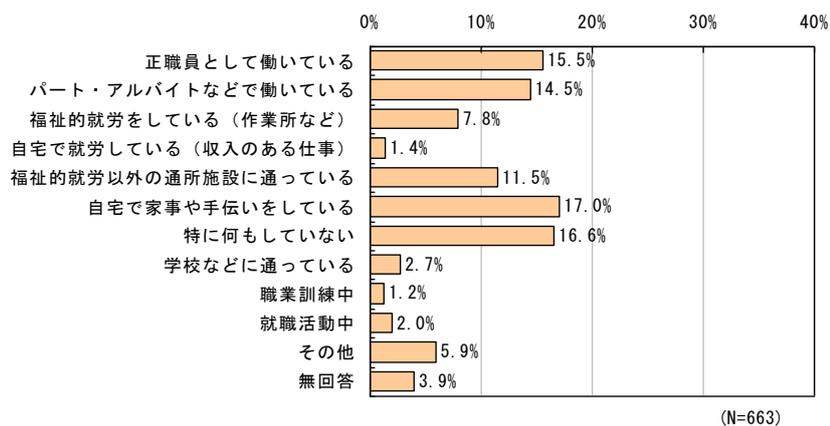


9 日中活動・就労について

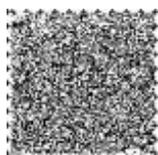
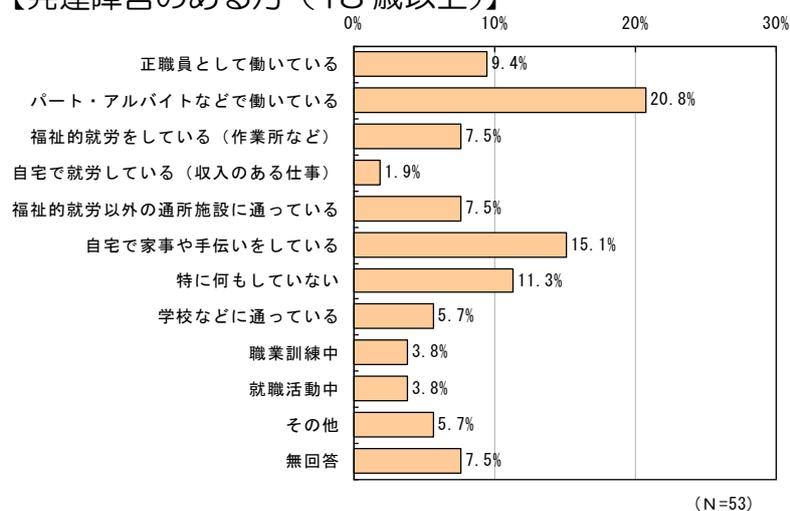
(1) 日中の過ごし方

在宅の方（18歳以上）では「自宅で家事や手伝いをしている」、発達障害のある方（18歳以上）では「パート・アルバイトなどで働いている」が最も多くなっています。

【在宅の方（18歳以上）】



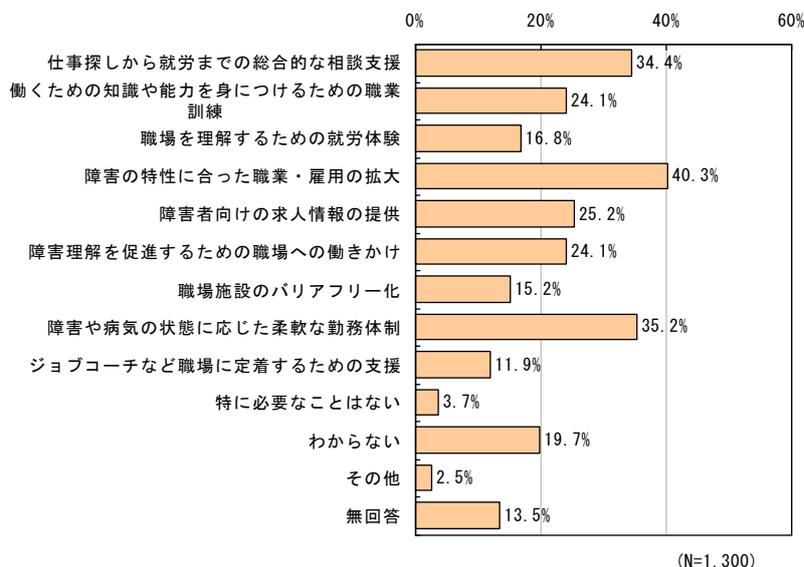
【発達障害のある方（18歳以上）】



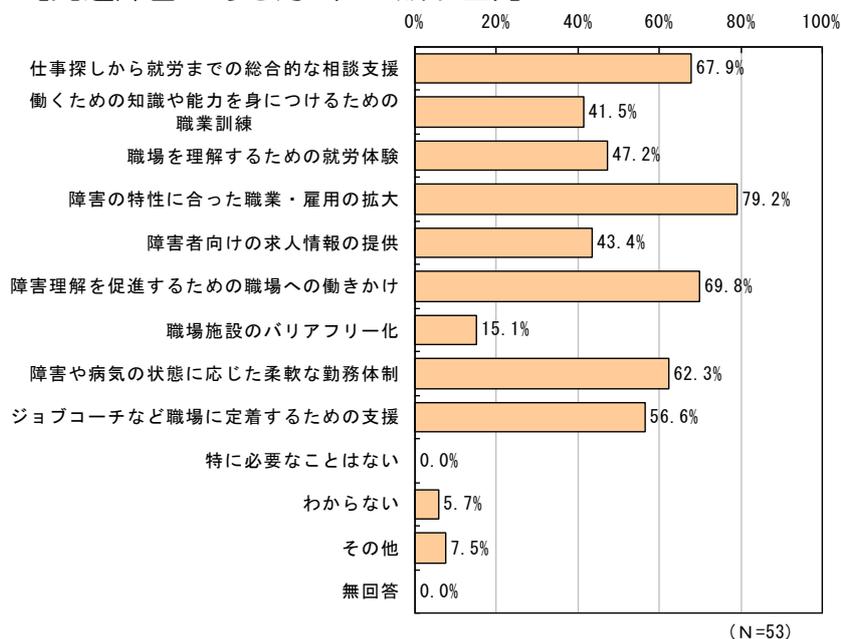
(2) 一般就労のために必要なこと

いずれの調査でも「障害の特性に合った職業・雇用の拡大」が最も多くなっています。

【在宅の方（18歳以上）】



【発達障害のある方（18歳以上）】

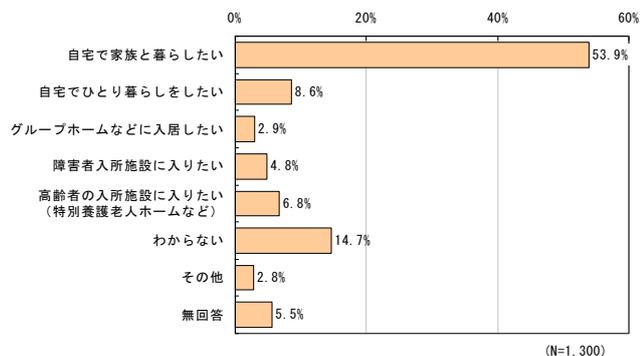


10 将来について

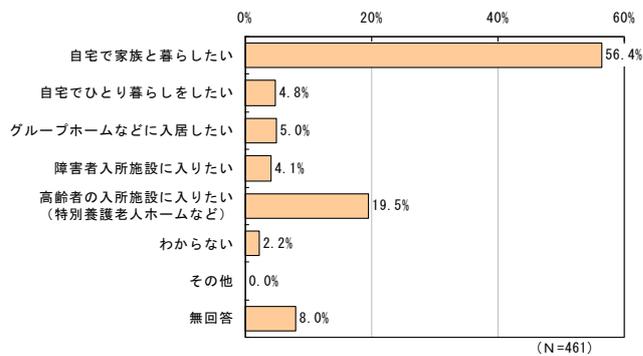
(1) 将来の暮らし方の希望

発達障害のある方（18歳未満）を除くすべての調査では「自宅で家族と暮らしたい」が最も多くなっています。

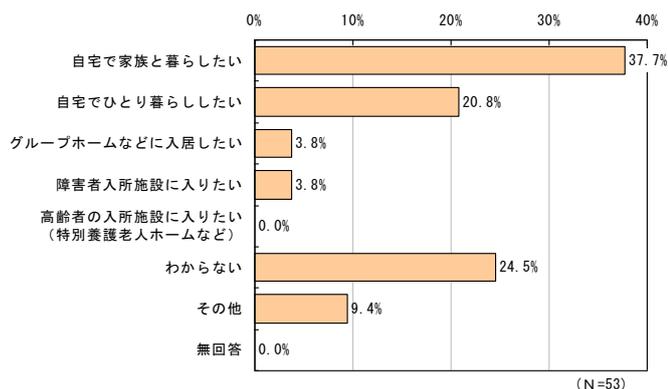
【在宅の方（18歳以上）】



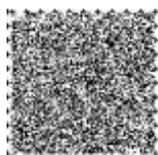
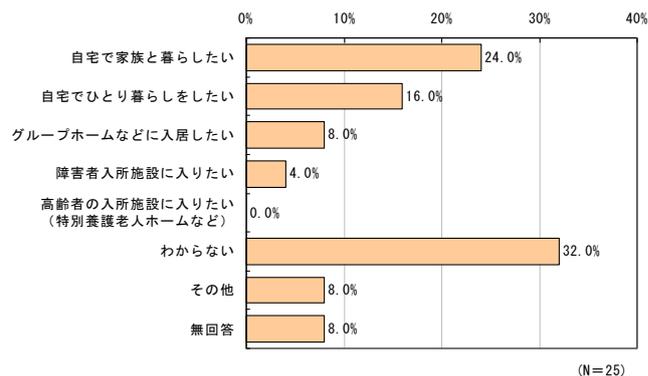
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



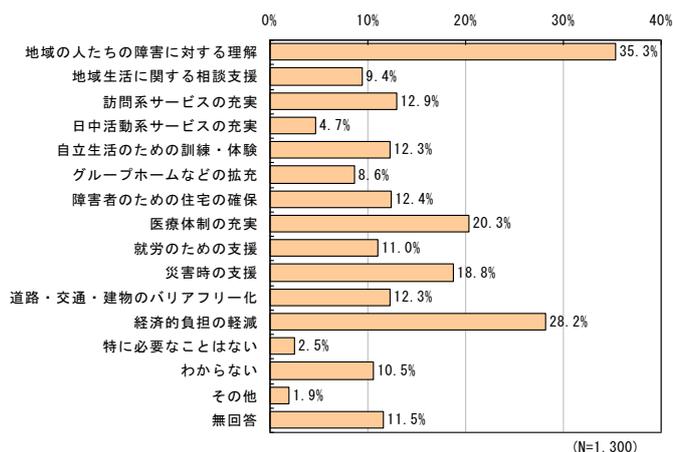
【発達障害のある方（18歳未満）】



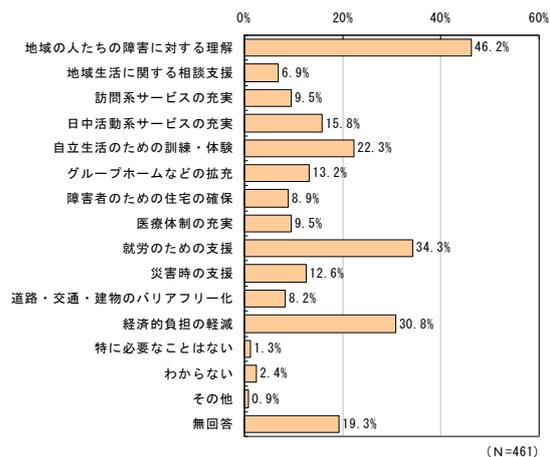
(2) 地域で生活するために必要なこと

発達障害のある方（18歳以上）を除くすべての調査では「地域の人たちの障害に対する理解」が最も多く、発達障害のある方（18歳以上）では「就労のための支援」が最も多くなっています。

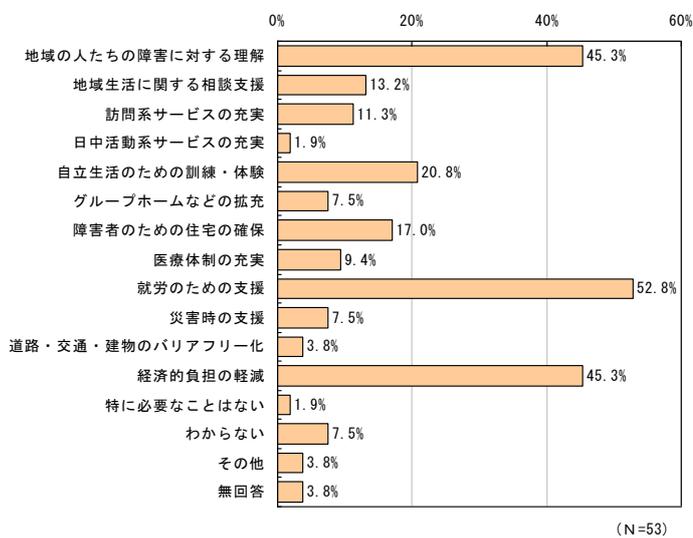
【在宅の方（18歳以上）】



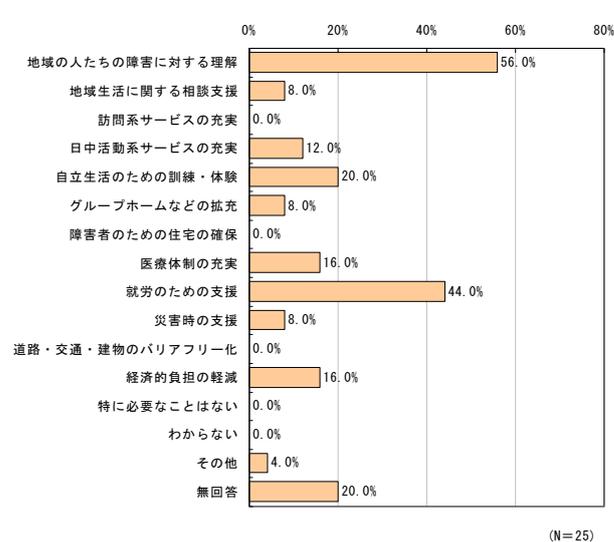
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



【発達障害のある方（18歳未満）】

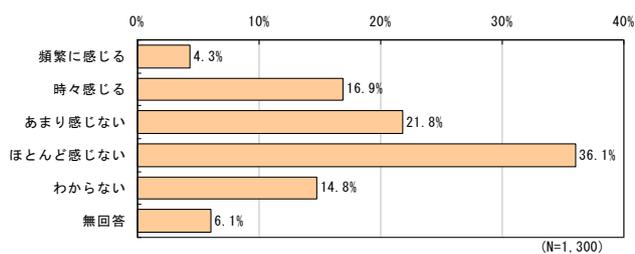


11 障害のある人に対する理解について

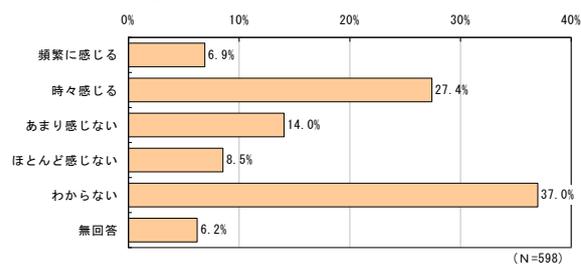
(1) 地域で生活していて感じる差別の有無

在宅の方（18 歳以上）、発達障害のある方（18 歳以上）では「ほとんど感じない」、18 歳未満の方、発達障害のある方（18 歳未満）では「時々感じる」が最も多くなっています。

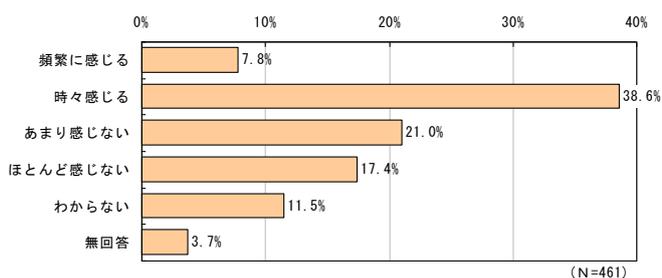
【在宅の方（18 歳以上）】



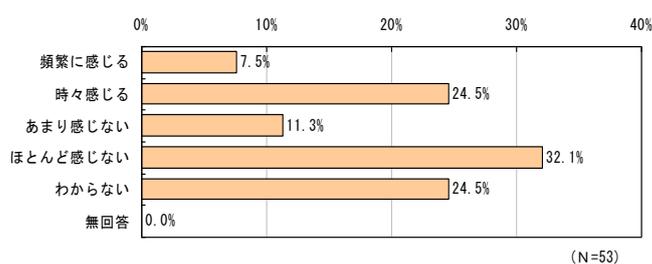
【施設に入所している方】



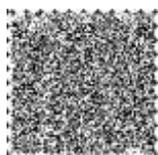
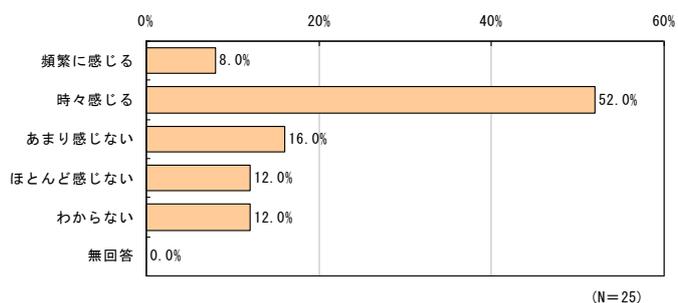
【18 歳未満の方】



【発達障害のある方（18 歳以上）】



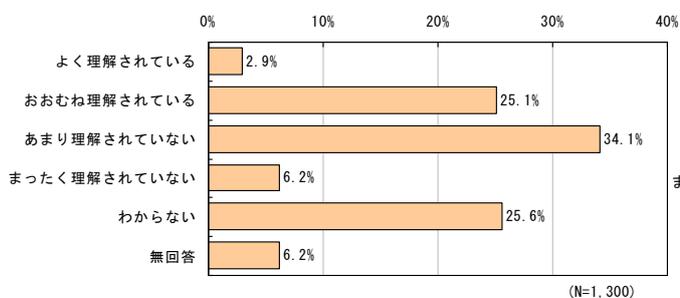
【発達障害のある方（18 歳未満）】



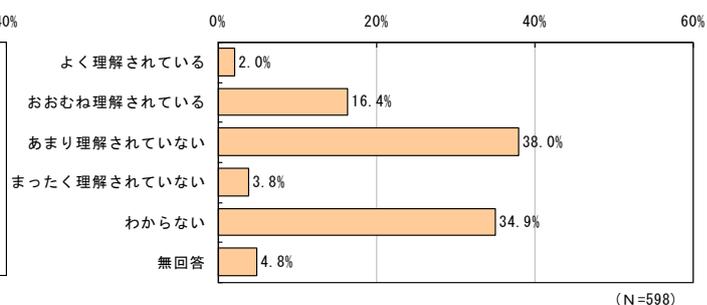
(2) 障害のある人に対する市民の理解度

いずれの調査でも「あまり理解されていない」が最も多くなっています。

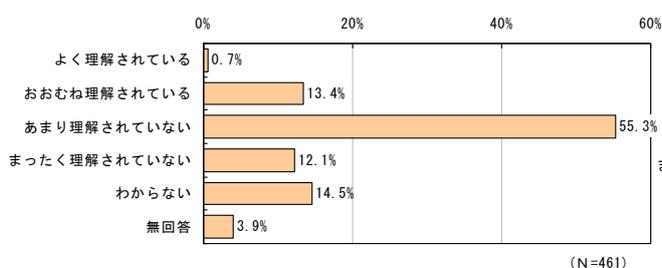
【在宅の方（18歳以上）】



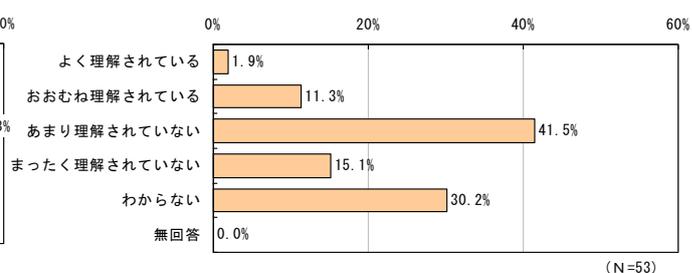
【施設に入所している方】



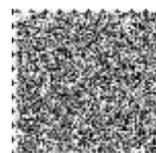
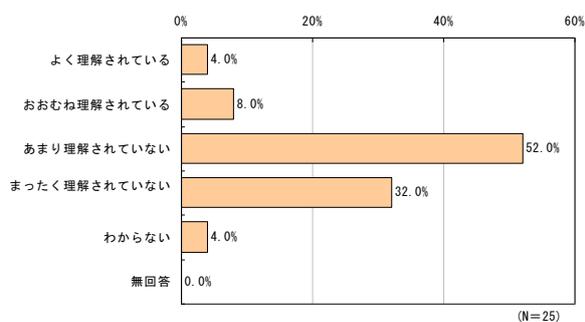
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



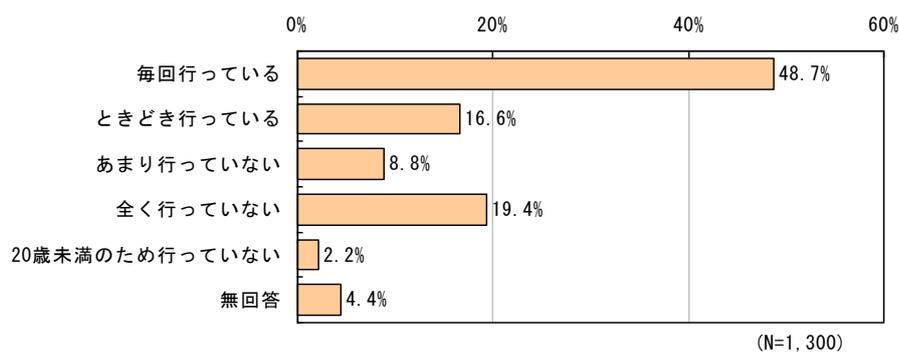
【発達障害のある方（18歳未満）】



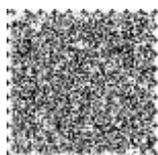
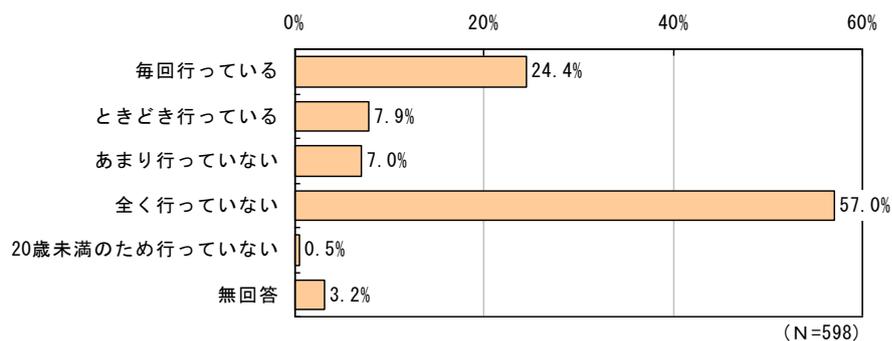
(3) 選挙投票の頻度

在宅の方（18歳以上）では「毎回行っている」、施設に入所している方では「全く行っていない」が最も多くなっています。

【在宅の方（18歳以上）】



【施設に入所している方】

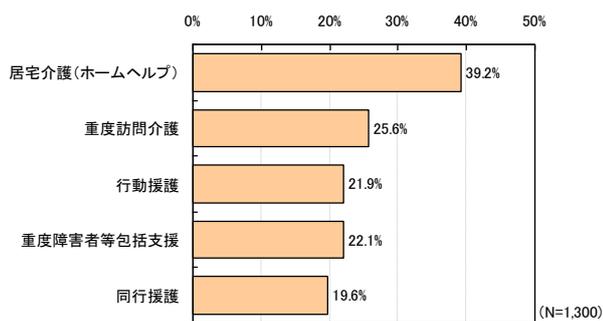


12 サービスの利用について

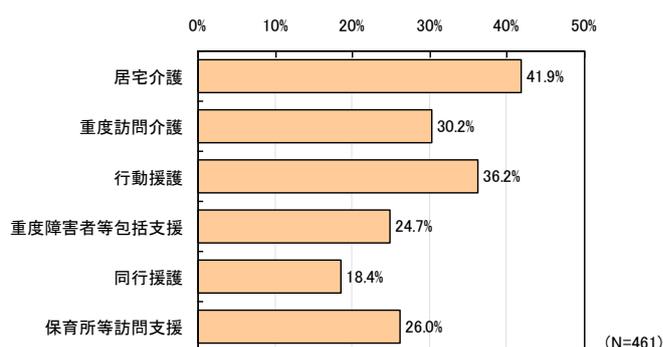
(1) 訪問系サービスの利用意向

在宅の方（18歳以上）、18歳未満の方、発達障害のある方（18歳以上）では「居宅介護」（発達障害のある方（18歳以上）は行動援護と同率）が最も多く、発達障害のある方（18歳未満）では「行動援護」「保育所等訪問支援」が同率で最も多くなっています。

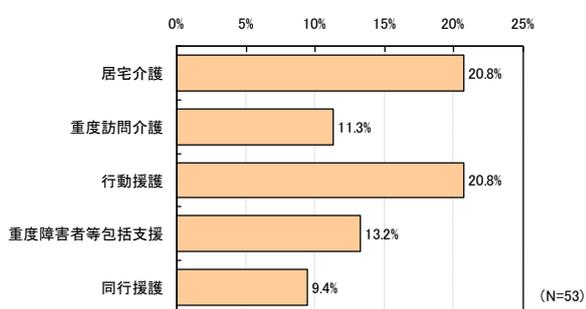
【在宅の方（18歳以上）】



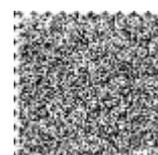
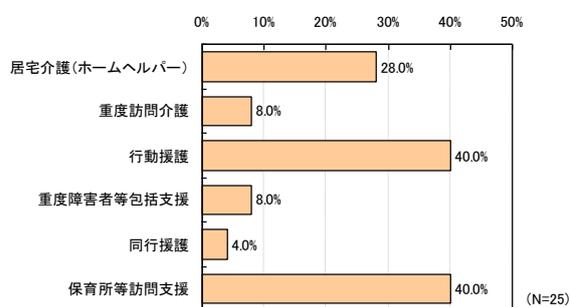
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



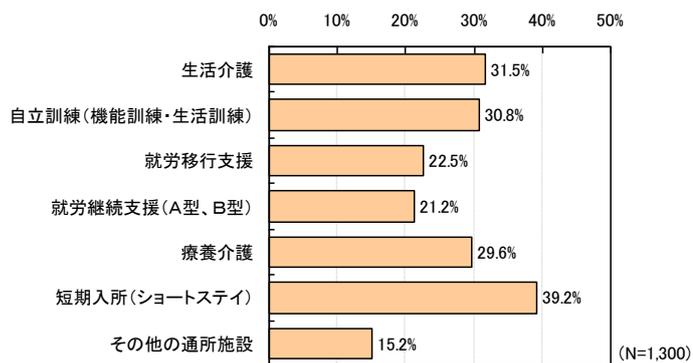
【発達障害のある方（18歳未満）】



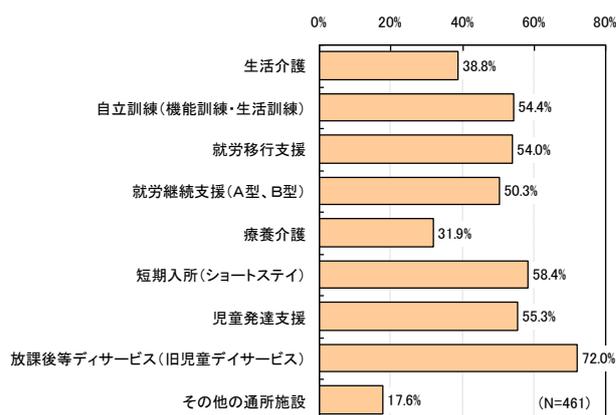
(2) 日中活動系サービスの利用意向

在宅の方(18歳以上)では「短期入所」、18歳未満の方では「放課後等デイサービス」、発達障害のある方(18歳以上)、発達障害のある方(18歳未満)では「就労移行支援」が最も多くなっています。

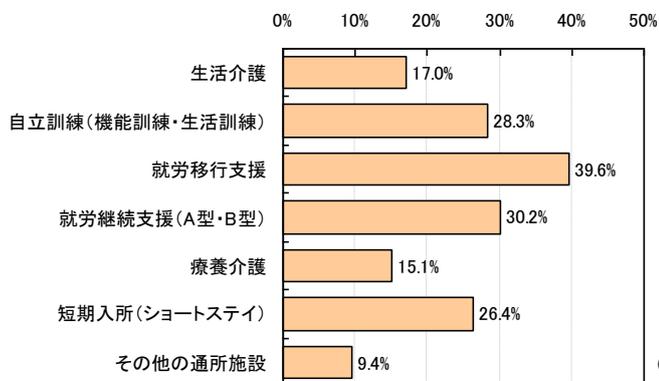
【在宅の方(18歳以上)】



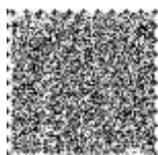
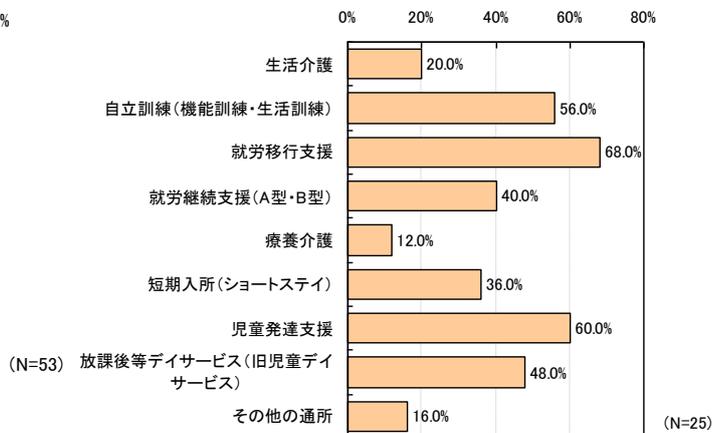
【18歳未満の方】



【発達障害のある方(18歳以上)】



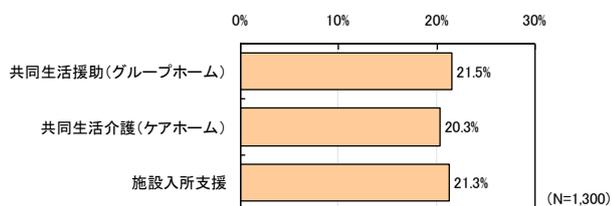
【発達障害のある方(18歳未満)】



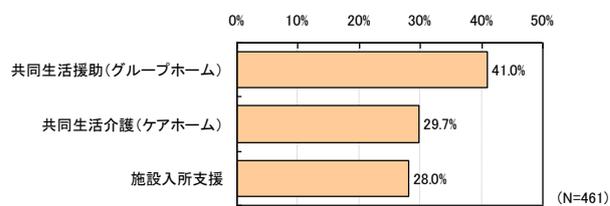
(3) 居住系サービスの利用意向

いずれの調査でも「共同生活援助（グループホーム）」が最も多くなっています。

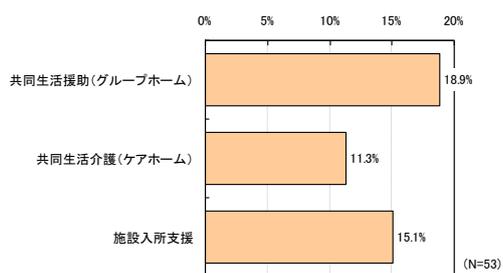
【在宅の方（18歳以上）】



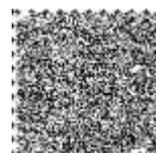
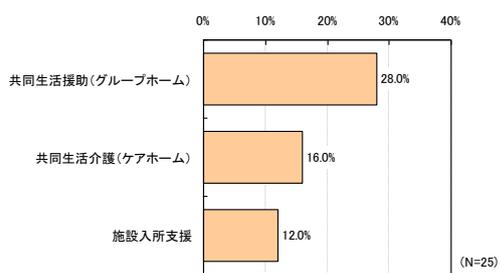
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



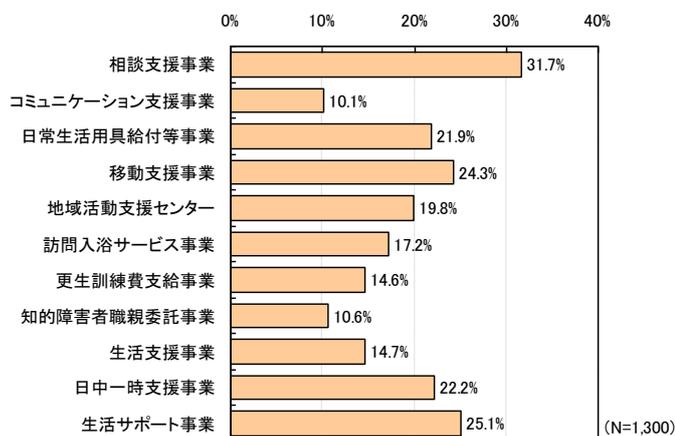
【発達障害のある方（18歳未満）】



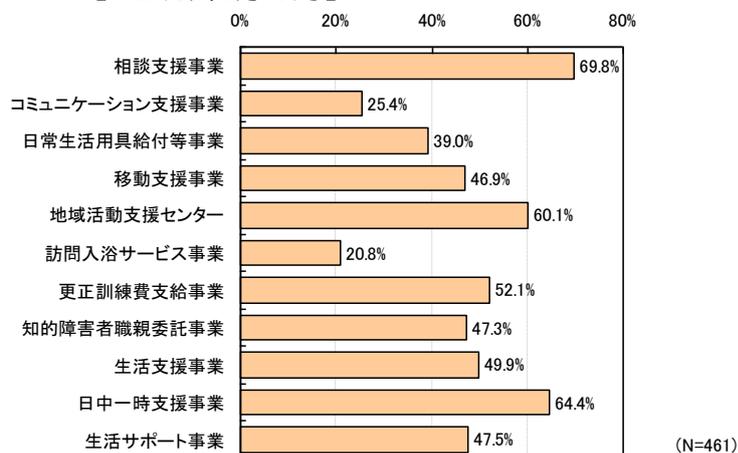
(4) 地域生活支援事業の利用意向

いずれの調査でも「相談支援事業」が最も多くなっています。

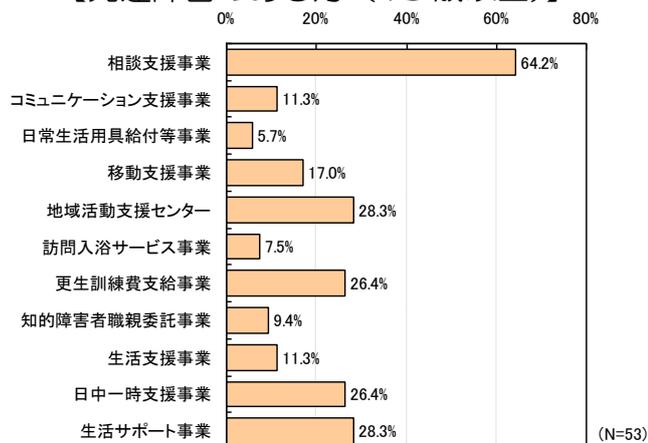
【在宅の方（18歳以上）】



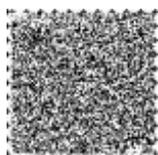
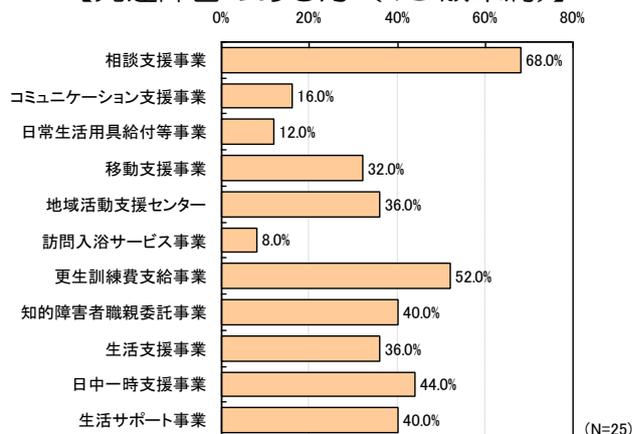
【18歳未満の方】



【発達障害のある方（18歳以上）】



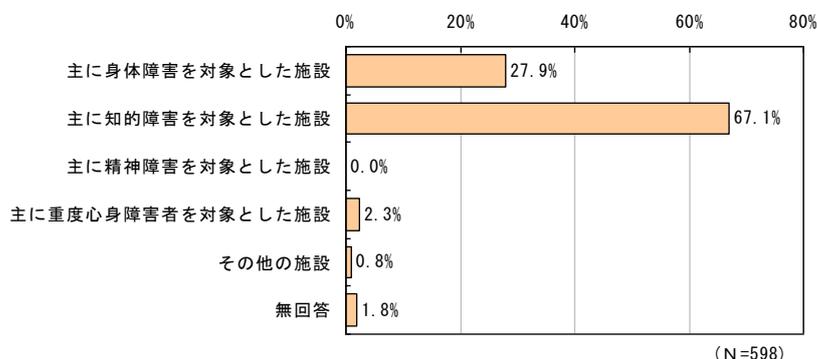
【発達障害のある方（18歳未満）】



13 施設への入所について（施設に入所している方）

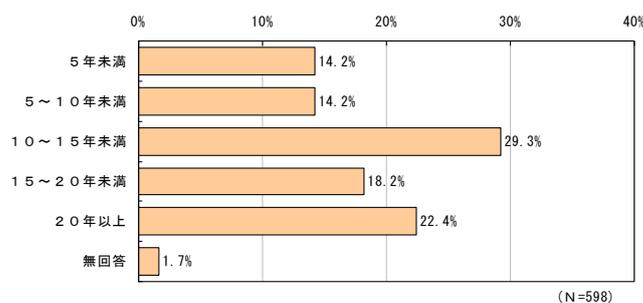
（1）施設の種類

「主に知的障害を対象とした施設」が最も多くなっています。



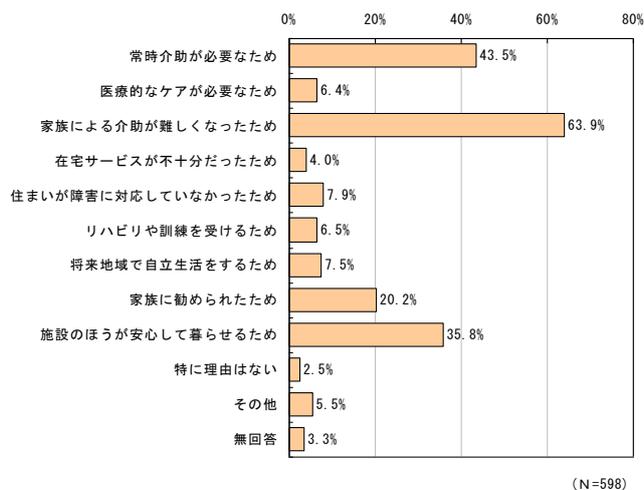
（2）施設に入所している期間

「10～15年未満」が最も多くなっています。



（3）施設に入所した理由

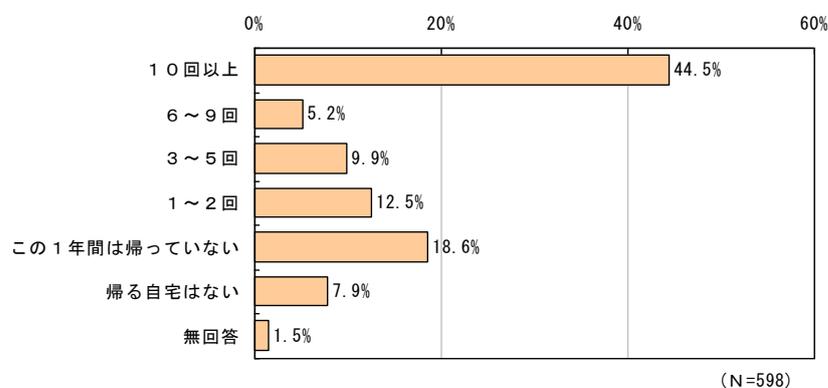
「家族による介助が難しくなったため」が最も多くなっています。



14 施設での生活について（施設に入所している方）

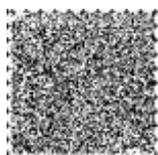
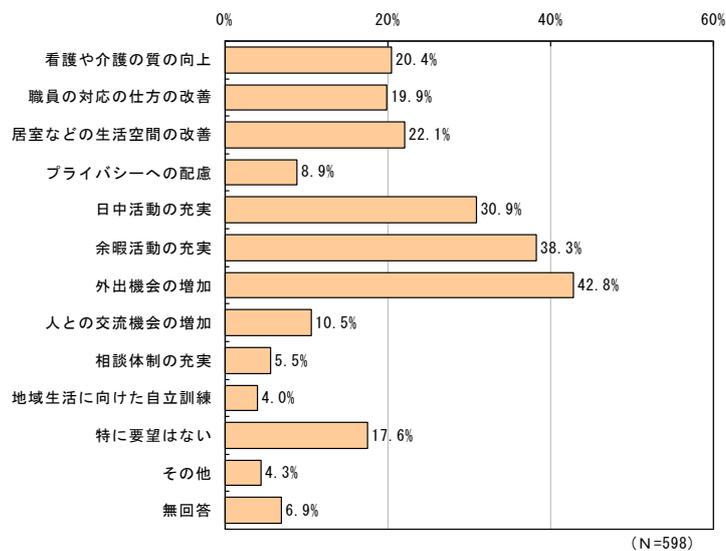
（1）自宅に帰る頻度

最近1年間で自宅に帰った回数は「10回以上」が最も多くなっています。



（2）施設に対する要望

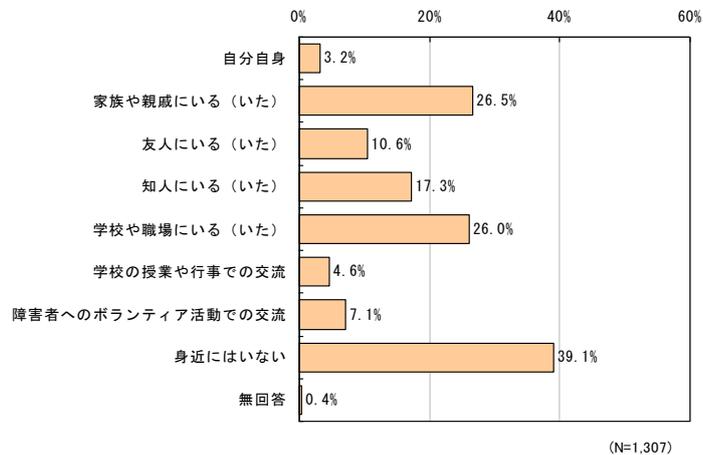
「外出機会の増加」が最も多くなっています。



15 インターネットモニターを対象とした調査

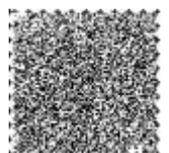
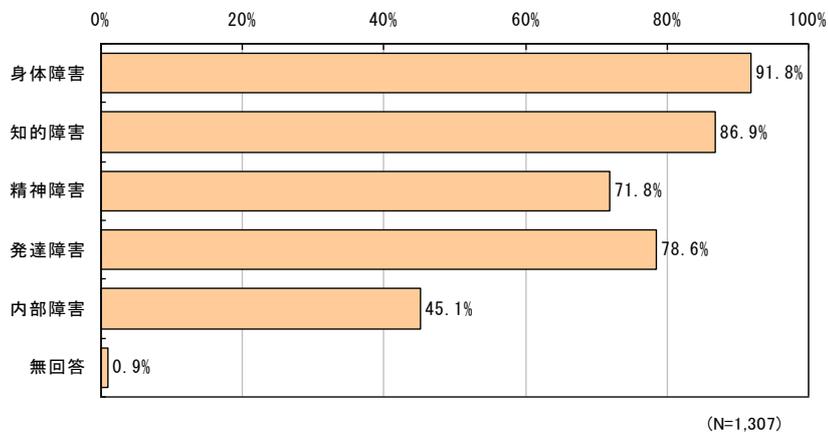
(1) 障害者との交流経験について

「身近にはいない」が最も多くなっています。



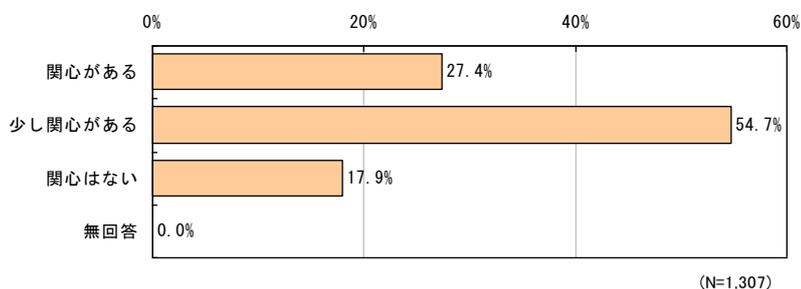
(2) 障害に関する認知度

「身体障害」が最も高くなっています。また「内部障害」だけが他の障害種別と比べて大幅に低くなっています。



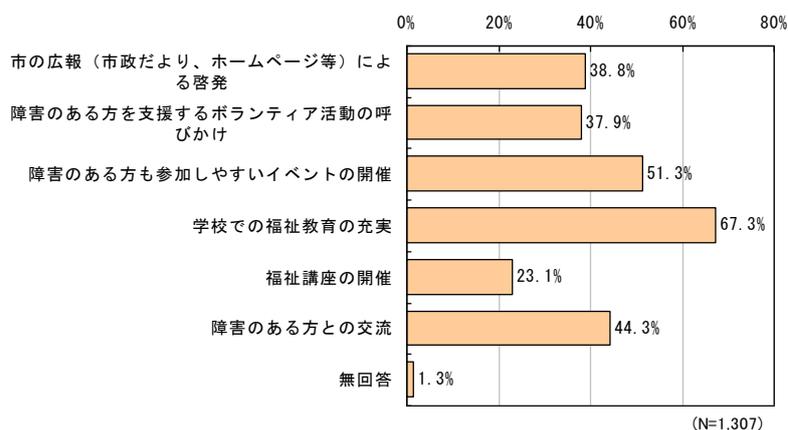
(3) 障害者福祉に対する関心

「少し関心がある」が最も多くなっています。



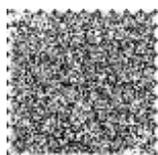
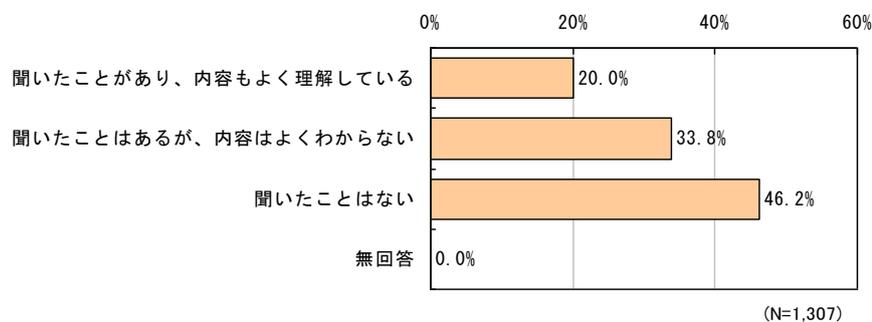
(4) 障害への理解を深めるために必要なこと

「学校での福祉教育の充実」が最も多く、次いで「障害のある方も参加しやすいイベントの開催」の順となっています。



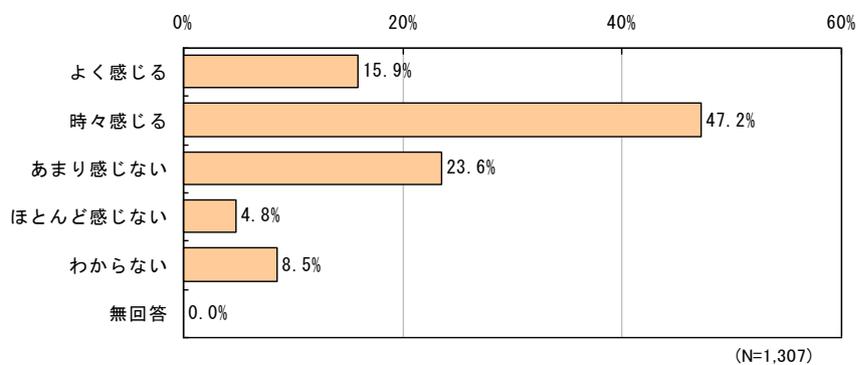
(5) ノーマライゼーションの認知度

「聞いたことはない」が最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」となっています。



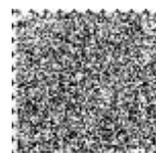
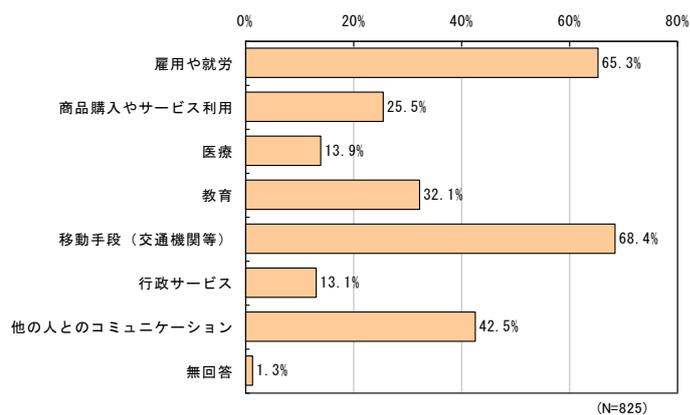
(6) 地域社会における障害者への差別、偏見、配慮のなさの有無

「時々感じる」が最も多くなっています。



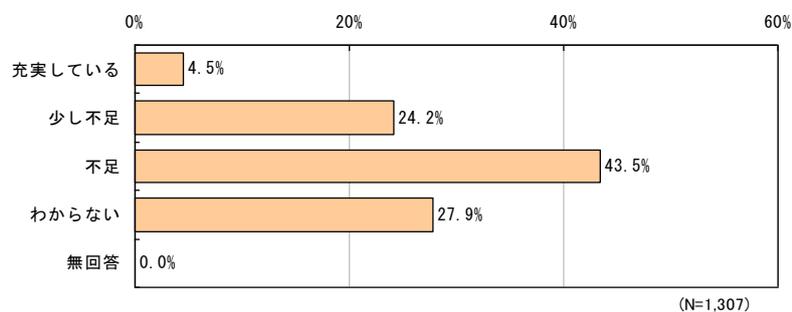
(7) 障害者への差別、偏見、配慮のなさを感じる場面

「移動手段（交通機関等）」が最も多く、次いで「雇用や就労」となっています。



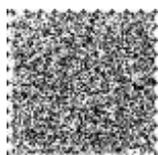
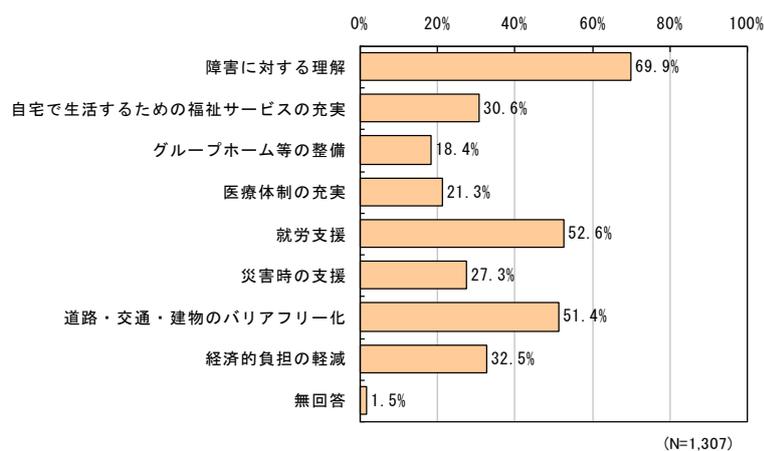
(8) 障害者施策の進捗度

「不足している」が最も多くなっています。



(9) 障害のある方が地域で生活していくために必要なこと

「障害に対する理解」が最も多く、次いで「就労支援」、「道路・交通・建物のバリアフリー化」となっています。



第3章 障害者団体ヒアリング調査の結果

1 当事者団体

(1) 団体について

◆活動の内容～会員の活動、相談、社会参加のための支援活動

会員の生活を支援するため、行事やイベント等の開催、旅行などを実施しています。また、市や県からの各種の委託事業を受託して、専門職の育成を行っています。

◆団体としての課題～会員の高齢化と、厳しい収支状況

会員の高齢化や会員数の減少が進んでいます。その理由としては、新規の障害者などの情報入手が個人情報保護法による制約で困難なことや、若い方は収入が少なく、自身の生活で精一杯のため団体活動に携わることができないことが挙げられます。

◆地域の中で果たすべき役割について～市民への周知と、障害者の地域への参加を支援

障害者が地域の中で生活できるよう、講習会の開催や、障害特性に応じたマークの普及等を行っています。また、障害者の地域への参加を促進するため、イベントや防災訓練等への参加を実施しています。

(2) 相談支援体制について

◆利用することが多い相談機関～団体の上部機関を利用するケースが多い。

上部団体を有する団体は、上部団体に相談を行っています。上部団体を有しない団体については、保健福祉センターや障害者相談センターなど、相談先が異なることが特徴です。

◆会員の方への情報提供～会報などでの周知が多い

会員への情報提供については、入会時の案内書類に記載したり、会報を活用して周知を行っています。また、会員の電話番号等を把握している団体は、電話での連絡を行っています。



◆相談支援に関する意見～さらなる情報提供を求める声もある

相談支援に関しては、さらなる情報提供を求める意見もありました。また、制度が変更された際には、周知を図ってほしいとの意見もありました。

(3) サービス利用について

◆会員の方が利用することが多いサービス

タクシー券、ガソリン券などの意見がありました。

- 医療・・・透析が医療機関の都合で、自由な時間での対応が困難である。
- 外出・・・ガソリンの値上げにより、給油できる量が減った。
- 認定基準・・・国の認定基準では、聴覚の認定が厳しく手帳がもらえない。
- 日常生活用具、補装具
・・・家族の有無により、支給内容が異なる。
- 駐車場・・・「きぼーる」で駐車料金が発生する。

◆今後充実してほしいサービス～移動手段や視覚・聴覚向けサービスが多い

会員の方が利用するサービスは、移動手段や視覚・聴覚向けサービスなどの意見がありました。

主なサービスに関する意見を列記します。

- 移動手段・・・タクシー券よりガソリン券の方が良い。
- 視覚・聴覚・・・地域活動支援センターの充実や、聴覚障害者への支援機器の整備。

(4) 療育・教育、就労について

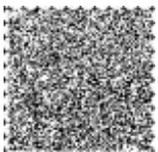
◆療育・教育や学校生活～パンフレットを作成して支援している

18歳未満の方向けのパンフレットを作成しています。

先生により技量の差がある、障害の重さにより対応に差があるなどの意見がありました。

◆一般就労のために必要なこと～障害者への理解促進

一般就労を図るため、障害者への理解促進や、意思疎通の支援のための情報バリアフリー機器の導入等が必要との意見がありました。



(5) 障害に対する理解や差別について

◆就労やサービス提供関係の場面での意見が多い

同一の仕事でも給与差があるとか、介護施設の入居を断られる、医師が装具を知らず不適切な対応をするなどの意見がありました。

(6) バリアフリー化の取り組みについて

◆トイレについては運用面での意見が多い

トイレについては、適切な使い方など、運用に関する意見が多くありました。また、障害者のトイレ利用に関する理解を進めてほしいという意見がありました。

(7) 防災体制の整備について

◆防災体制は、トイレ、避難所、地域とのかかわり等の意見が多い

防災面では、ストーマ装具等をつけている場合の対応、避難所における専門職員の配置、避難所で生活できない人にも物資を配給してほしい等の意見がありました。地域との関わりでは、地域と連携した防災訓練等の開催などの意見がありました。

(8) 市の障害福祉施策について

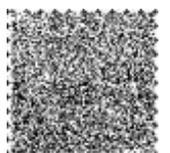
団体の財政的な支援等に関する意見がありました。

2 障害児者の親の会

(1) 団体について

◆活動の内容～会員（子ども）や、その保護者への活動が主

会員（子ども）への支援に係る活動の他に、子どもを支援する保護者向けの活動を実施しています。会員数がいずれも100人を超えており、子どもと保護者でさまざまな事業に参加するなどの、交流活動が主となっています。



◆団体としての課題～参加者数の減少と、個人情報保護法の壁

会員の減少が進んでいます。特に個人情報保護法による制約のため、新規会員の獲得が困難になっています。また、インターネット等の普及により、会に入らなくても情報入手が出来ると考える保護者が多くなっていることも一因です。

◆地域の中で果たすべき役割について～多様な活動による啓発

障害者が地域の中で生活できるよう、市民を対象とした多様な啓発活動、親同士の連携や支え合い、行政等への働きかけをおこなっています。

(2) 相談支援体制について

◆利用することが多い相談機関～相談先は多岐にわたる

療育センター、相談支援事業所、学校、行政などと多岐にわたっています。

◆会員の方への情報提供～会報などでの周知が多い

会員の方への情報提供手段は、会報が多くなっています。

◆相談支援に関する意見～相談機関により、やや評価に差が見られる

相談機関による差が見られるとの意見がありました。また、相談機関に関する情報提供を求める意見もありました。

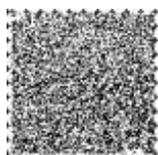
(3) サービス利用について

◆会員の方が利用することが多いサービス～移動支援など

移動支援やショートステイに関する意見がありました。特にショートステイは、床数が少ないとの意見がありました。

◆今後充実してほしいサービス～移動手段や預かりサービスが多い

移動手段や預かりサービスなどに関する意見がありました。



(4) 療育・教育、就労について

◆療育・教育や学校生活～教育現場に関するご意見が多い

医師が療育に貢献しているという意見がある一方、学校の教師に対しては、障害に関する理解や技量に差があるとの意見がありました。

◆一般就労のために必要なこと～ジョブコーチの配置や、仕事の進め方に関して

ジョブコーチの活用も含めた仕事の進め方についてのご意見がありました。

(5) 障害に対する理解や差別について

◆地域の中で障害者が共生しているかどうか

障害に対する理解や差別については、外出するとじろじろ見られるという意見や、地域の方が障害者に無関心になっているという意見がありました。

(6) バリアフリー化の取り組みについて

◆トイレに関する意見が多く、設備面の意見が多い

トイレの設備に関する意見が多くありました。障害者のトイレ利用に関する理解を進めてほしいという意見がありました。

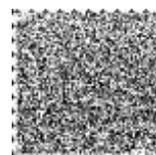
(7) 防災体制の整備について

◆避難所に関する意見が多い

防災体制に関する意見としては、避難所での生活や、避難所での生活をあきらめているなどの意見がありました。

(8) 市の障害福祉施策について

市の施策をより充実してほしいという意見や、障害の区分により受けられるサービスの差が大きいなどの意見がありました。



3 家族会・事業者団体連絡会

(1) 団体について

◆活動の内容～会員間での情報交換が主

団体の性格上、会員間で情報交換、親睦などが主となっています。

◆団体としての課題～参加者の高齢化が進む

会員の減少が進んでいます。また、予算の制約があるために活動場所の確保が困難になっているという意見がありました。

◆地域の中で果たすべき役割について～地域の方の理解を深める

障害者が地域の中で生活できるよう、実施事業を通じて市民の理解を深めていくことが重要との意見がありました。

(2) 相談支援体制について

◆利用することが多い相談機関～相談先は多様である

利用することが多い相談機関については、障害企画課、保健福祉センター、健康センターなど多岐にわたっています。

◆会員の方への情報提供～定例総会やイベント時に周知を図る

会員の方への情報提供については、定例総会やイベント時を活用して周知を図っています。

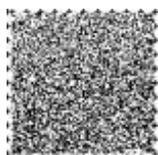
◆相談支援に関する意見～相談機関の充実を求める声が多い

相談機関のさらなる充実を求める意見がありました。

(3) サービス利用について

◆会員の方が利用することが多いサービス～自立に向けたスキルの獲得

障害者が自立するためのスキルを獲得するためのサービスに関する意見がありました。また、必要な時になかなか使えないなどという意見がありました。



◆今後充実してほしいサービス～支援センターの充実やピアサポートの実施

今後充実してほしいサービスとしては、支援センターの充実や、ピアサポートの実施、その他必要な情報提供を求める意見がありました。

(4) 療育・教育、就労について

◆一般就労のために必要なこと～短時間労働やジョブコーチの意見が多い

短時間労働やジョブコーチに関するご意見がありました。

(5) 障害に対する理解や差別について

◆「家族」「医師」に関する意見が多い

障害に対する理解を進める上では「家族」「医師」に関するご意見がありました。また、地域の方との交流を進めていくことが必要とのご意見がありました。

(6) バリアフリー化の取り組みについて

特になし

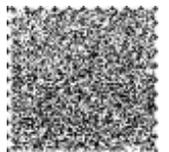
(7) 防災体制の整備について

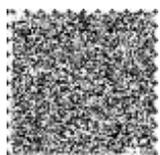
◆避難所や薬に関する意見が多い

防災面では、避難所での生活に関するご意見や、薬の確保を心配する意見がありました。

(8) 市の障害福祉施策について

グループホーム設立のための条件緩和、ワークホーム制度の存続、精神障害者の理解促進に関する意見がありました。





**千葉市障害者計画・障害福祉計画策定に係る
実態調査報告書**

—障害者生活実態・意向調査—
(概 要 版)

平成 26 年 3 月発行

発 行 千葉市保健福祉局 高齢障害部 障害企画課
〒260-8722 千葉市中央区千葉港 1-1
電話 043-245-5227 FAX 043-245-5630

調査委託機関 株式会社 地域計画連合
〒170-0004 豊島区北大塚 1-19-12
電話 03-5974-2021 FAX 03-5974-5770

